

ホウジ ホウ

宝持坊遺跡発掘調査報告書

—坂田郡山東町清滝—

1987.3

滋賀県教育委員会

滋賀県文化財保護協会

宝持坊遺跡発掘調査報告書

—坂田郡山東町清滝—

1987.3

滋賀県教育委員会

財団 法人 滋賀県文化財保護協会

序

滋賀県教育委員会では活力のある県民社会、生きがいのある生活を築くための一つとして、文化環境づくりにとりくんでいます。そうした中で文化財の保存と活用を図る施策のうち、開発に伴う埋蔵文化財の保護も重要な課題となっております。

先人の遺してくれた文化財は、現代を生きる我々のみならず子々孫々に至る貴重な宝でもあります。このような大切な文化遺産を破壊することなく、後世に引き継いでいくためには、広く県民の方々の文化財に対する深いご理解とご協力を得なければなりません。

ここに塔中川荒廢砂防工事に伴う事前発掘調査の成果を取りまとめましたので、ご高覧のうえ今後の埋蔵文化財保護のご理解に役だてていただければ幸いです。

最後に、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力を頂きました、地元の方々並びに関係機関に対して厚く感謝の意を表します。

昭和62年3月

滋賀県教育委員会

教育長 飯田 志農夫

例　　言

1. 本書は、昭和61年度に実施した塔中川荒廃砂防工事に伴う板田郡山東町清流所在、宝持坊遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、滋賀県砂防課の委託により、滋賀県教育委員会を調査主体とし、財團法人滋賀県文化財保護協会を調査機関として実施した。
3. 本事業の事務局は次のとおりである。

滋賀県教育委員会

文化財保護課長	服部 正	課長補佐	田口宇一郎
埋蔵文化財係長	林 博通	主任技師	用出 政晴
管理係主任主事	山木徳樹		

財團法人 滋賀県文化財保護協会

理事長	南 光雄	事務局長	中島 良一
埋蔵文化財課長	近藤 澄	調査係長	田中 勝弘
		同技師	岩間 信幸
総務課長	山下 弘	総務課主任主事	松本 韶弘
		同	立入 裕子

4. 現地調査・整理業務は、岩間信幸が担当した。
5. 本書は、岩間・古川竜が執筆し、岩間が編集した。なお、古川の執筆分のみ文末に明記した。遺物の写真撮影については、寿福 滋氏を煩した。
6. 出土遺物については、滋賀県埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

1.はじめに	1
2.位置と環境	2
3.調査経過	6
4.遺構	9
5.遺物	19
6.結び	22

挿図目次

第1図	遺跡位置図(略図)	1
第2図	周辺遺跡分布図	2
第3図	清流繪図	4
第4図	トレンチ位置および周辺地形図	5
第5図	トレンチ配置図	7~8
第6図	T1 遺構実測図	9
第7図	T1 出土遺物実測図	9
第8図	T2 火薙図	10
第9図	T2 出土遺物実測図	10
第10図	堤状遺構断面実測図	11
第11図	T4-a区 遺構実測図	12
第12図	T4-b区 遺構実測図	13
第13図	T4-b区 出土遺物実測図	14
第14図	T4-d区 上層遺構実測図	14
第15図	T4-d区 上層 SK001 出土遺物実測図	15
第16図	T4-d区 下層 遺構実測図	16
第17図	T4-e区 遺構実測図	17
第18図	T4-f区 遺構実測図	18
第19図	T4-f区 濱戸旗子実測図	19
第20図	時期・產地別遺物割合図	20

図 版 目 次

P L 1	(上) 調査地遠望 (南東から)	(下) 調査区近景 (東から)
P L 2	(上) T 4 調査前状況 (南から)	(下) T 3・4 調査前状況 (南から)
P L 3	(上) T 3・4 調査前状況 (北から)	(下) T 3 調査前状況 (西から)
P L 4	(上) T 2 調査前状況 (西から)	(下) T 1 石垣検出状況 (南から)
P L 5	(上) T 1 石垣検出状況 (北から)	(下) T 1 石垣下たち割り断面状況 (西から)
P L 6	(上) T 2 トレンチ全景 (南から)	(下) T 2 トレンチ地山状況 (東から)
P L 7	(上) T 2 土師器出土状況 (東から)	(下) T 3 堤状遺構たち割り断面状況 (西から)
P L 8	(上) T 3 深掘地点断面状況 (南東から)	(下) T 3-b 区 トレンチ掘削状況 (東から)
P L 9	(上) T 4 精査作業状況 (東から)	(下) T 4-a 区 石垣精査状況 (北から)
P L 10	(上) T 4 a 区 石垣検出状況 (西から)	(下) T 4-a 区 石垣検出状況 (南から)
P L 11	(上) T 4-b 区 集石検出状況 (西から)	(下) T 4-b 区 集石検出状況 (東から)
P L 12	(上) T 4-b 区 集石中土器出土状況	(下) T 4-d 区 SK001 瓦出土状況 (南から)
P L 13	(上) T 4-d 区 SP001 柱根検出状況 (南から)	(下) T 4-d 区 SP002・003 柱根検出状況 (南から)
P L 14	(上) T 4-d 区 下層遺構検出状況 (南から)	(下) T 4-e 区 土器群検出状況
P L 15	(上) T 4 e 区 SK005 検出状況	(下) T 4-f 区 SK006・自然流路 検出状況 (南から)
P L 16	(上) T 1 整地層磁器外面	(下) 同上内面
P L 17	(上) T 1 整地層磁器外面	(下) 同上内面
P L 18	(上) T 1 整地層陶器	(下) T 1 整地層陶器
P L 19	(上) T 1 整地層陶器	(下) T 1 整地層土器 硝子瓶
P L 20	(上) T 2 腐植土層磁器外面	(下) 同上内面
P L 21	(上) T 2 腐植土層陶器	(下) T 2 地山直上陶器 土器
P L 22	(上) T 3 陶器外面	(下) T 4-a 区 磁器 半磁器
P L 23	(上) T 4-a 区 陶器外面	(下) 同上内面
P L 24	(上) T 4-a 区 陶器・須恵器	(下) T 4-a 区 陶器 須恵器
P L 25	(上) T 4-b 区 磁器外面	(下) 同上内面
P L 26	(上) T 4-b 区 陶器外面	(下) 同上内面
P L 27	(上) T 4-b 区 陶器外面	(下) 同上内面

P L28	(上) T 4 - b 区 陶器	(下) T 4 - b 区 陶器
P L29	(上) T 4 - b 区 陶器	(下) T 4 - b 区 半磁器 上筛器
P L30	(上) T 4 - d 区 SK001 磁器・陶器外面	(下) 同上内面
P L31	(上) T 4 - e 区 土筛器	(下) T 4 - e 区 須惠器外面
P L32	(上) T 4 - e 区 須惠器内面	(下) T 4 - f 区 陶器
P L33	(上) T 1 瓦	(下) T 1 瓦
P L34	(上) T 2 + T 4 - a 区 瓦	(下) T 4 - b 区 瓦
P L35	(上) T 4 - d 区 SK001 瓦	(下) T 4 - d 区 SK001 瓦
P L36	(上) T 4 - d 区 下层 T 4 - e 区 瓦	(下) T 4 - a 区 砾石
P L37	T 1 + T 4 - a 区 石造遗物	
P L38	(上) T 1 + T 2 + T 4 - a 区 金属品	(下) T 4 - b 区 + T 4 - d 区 金属品
P L39	T 4 - d 区 下层柱根	

表 目 次

遗物觀察表

上器 T 1	23
T 2	25
T 3	26
T 4	26
瓦	29
石製品	31
金属品・錢	32

1. はじめに

本報告は、坂田郡山東町清流に所在する宝持坊遺跡において、昭和61年度に実施した塔中川荒廢砂防工事に伴う埋蔵文化財の発掘成果を収める。

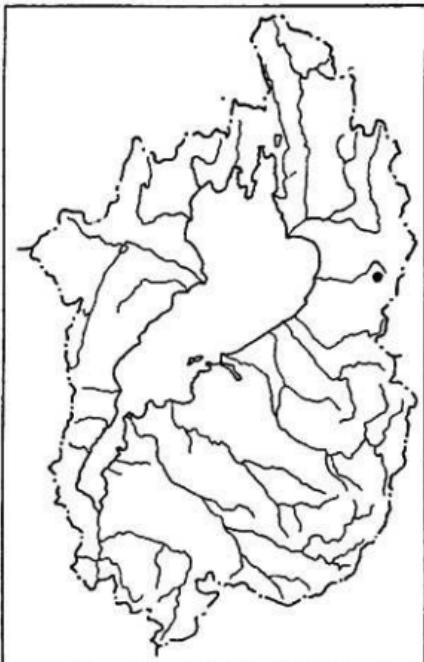
宝持坊遺跡は、弘仁年間(810~824)に草創伝承をもつ真言宗豊山派の宝持院に付随する坊跡とされる。昭和59年度の砂防堤および工事用道路建設に伴う調査で、宝持院跡平坦地北の峡谷沿いに庭園・土器・五輪塔・石塔群を一部伴う21の郭状遺構が階段状に確認され、少なくとも近世時には宝持坊のほかにいくつかの坊が機能していたものと考えられる。

本調査地は、前調査地の砂防堤下流中川に続く水路部分にあたり、工事掘削範囲の幅42m、長さ約140m、面積600m²を対象とする。水路は、宝持院の北東隅をかすめて工事用道路との交差地で直線的に南走し、清流集落を二分して東流する塔中川につながる。調査地にかかる郭状遺構

と考えられる平坦地は、宝持院北東隅にかかる地点を含めて5箇所を数えるが、いずれもその端部をかろうじてかすめる程度である。

現地調査は、8月5日より9月6日まで行い、整理業務は、翌年3月に完了した。

調査においては、長浜県上木事務所、山東町教育委員会ならびに清流地区の方々から協力を賜った。記して謝意を表わします。



第1図 遺跡位置図

2. 位置と環境

宝持坊遺跡は、坂田郡山東町清瀧寺塔中に所在する。

山東町はその名の由来のごとく、坂田郡を東西に分かつ横山丘陵の東にあり、北に伊吹山南麓、南は鈴鹿山脈がひかえ、大半を山丘部が占める。ほぼ中央に位置する清瀧山(440m)によって平



1 宝持坊遺跡	2 清瀧寺遺跡	3 柏原城遺跡	4 清瀧寺京極家墓所
5 能仁寺遺跡	6 北畠具行墓	7 北谷遺跡	8 関村氏遺跡
9 勝願寺遺跡	10 小泉遺跡	11 葉庄遺跡	12 金比羅神社古墳群
13 談叢所遺跡	14 小野遺跡	15 向山遺跡	16 市場寺遺跡
17 柏原本陣遺跡	18 笹浦館遺跡	19 柏原御殿遺跡	20 妙法寺遺跡
21 長塚遺跡	22 王塚遺跡	23 白清水遺跡	

第2図 周辺遺跡分布図 (清瀧・柏原)

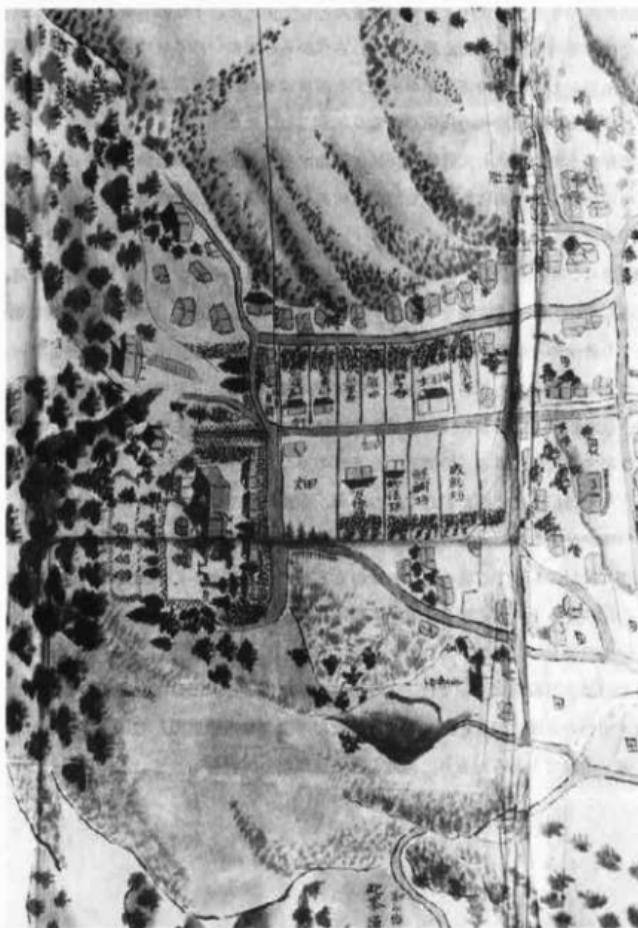
野部が東西に分かれ、西部は北端に町境を画する柏原川が西流するが、その沖積作用による恩恵は少なく、小低丘が多い。東部も天野川が清滝山北麓の狭い谷部をまわって西流するが、当地は東の関ヶ原地狭部につながり、古代より交通の要衝として栄えた。すなわち東部は、古代三關の一つ、不破関を擁する美濃國を視近距離におき、古代から近世にいたるまで東山道・中山道の駅・宿場となった柏原があり、宝持坊遺跡が所在する清滝はその西方の清滝山東麓に位置する。

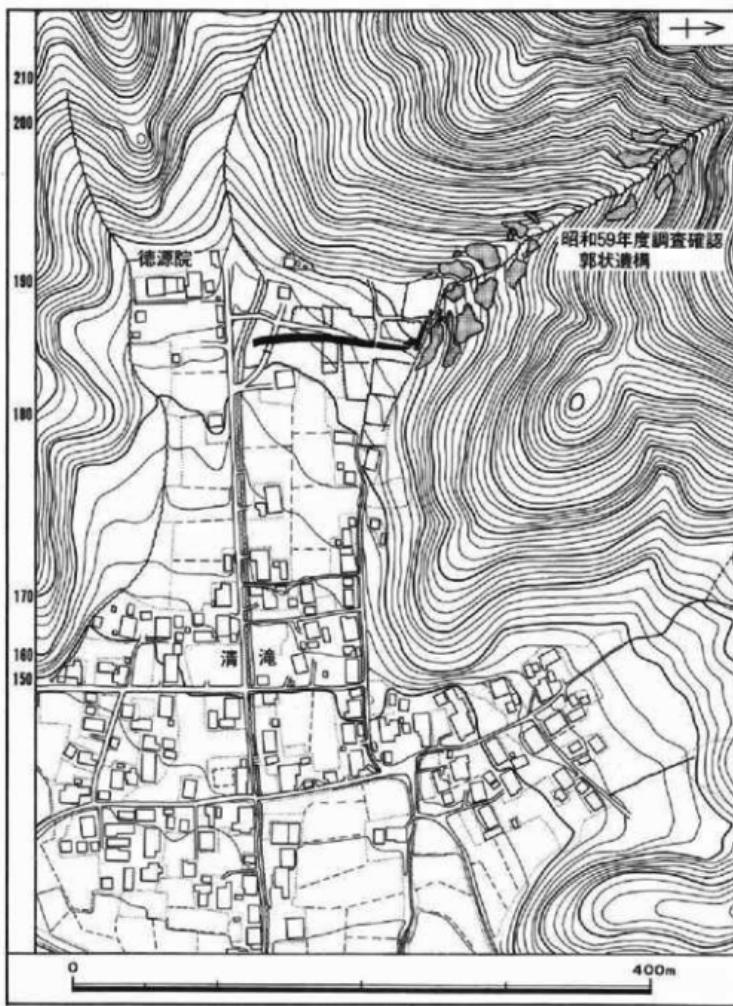
清滝には、佐々木京極家初代の氏信が弘安9年(1286)に創建したと伝わる徳源院が現存し、当墓地内に列座する同家歴代の宝篋印塔18基は国指定史跡を受ける。当院の盛衰については、当町の中近世史の全容を述べるに等しい歴史的位置にあり、本稿の能力ではないが、宝持坊遺跡との関係上、若干の記述を留めておきたい。

清滝寺徳源院は、現在の清滝の集落を南北に縦断する現道から直交して丘尾部に西に延びる道を中心 $250\text{m} \times 400\text{m}$ の範囲に想定されている清滝寺遺跡の北奥部に位置する。宝持坊遺跡はその東に鎮座する清滝神社の参道を横断する現道の北東端、谷筋入口に所在し、元禄13年(1700)のものと伝わる清滝絵図にも12坊と並んでその名の記載がある。文献では弘安9年(1286)銘記の寺蔵文書一通が初見となるが、「寛政重修諸家譜」は創建年にある。12坊については、応安6年(1373)の寺蔵文書にある「僧坊」「山寺坊中」などが注目されるが、「十二坊」や各坊の実名は寛文5年(1665)まで待たねばならないが、寺蔵文書では同年に4坊のみが存在しており、寛文12年に12坊が復興されたとあり、元禄絵図につながる。宝持坊は『清滝雜記』に文政ごろ(1818~1830)の記録として12坊の外に一乗坊とともにその名がみえ、管見のかぎりでは『近江國地志略』の記述として「真言宗豊山派、本尊不動明王、元禄年間空慶再建、弘仁年開く」とある他に詳しい史料を見いだせなかった。

本遺跡周辺の歴史的環境については、「板田郡山東町内遺跡詳細分布調査報告書」の詳細に譲るが、清滝・柏原の範囲に限ると、昭和60年度の『滋賀県遺跡地図』では遺跡のはほとんどが中世の寺院・城・館跡で占められおり、当地の歴史的環境の特徴を示している。

第3圖 清流松園





第4図 トレンチ位置（黒塗部分）および周辺地形図

3. 調査経過

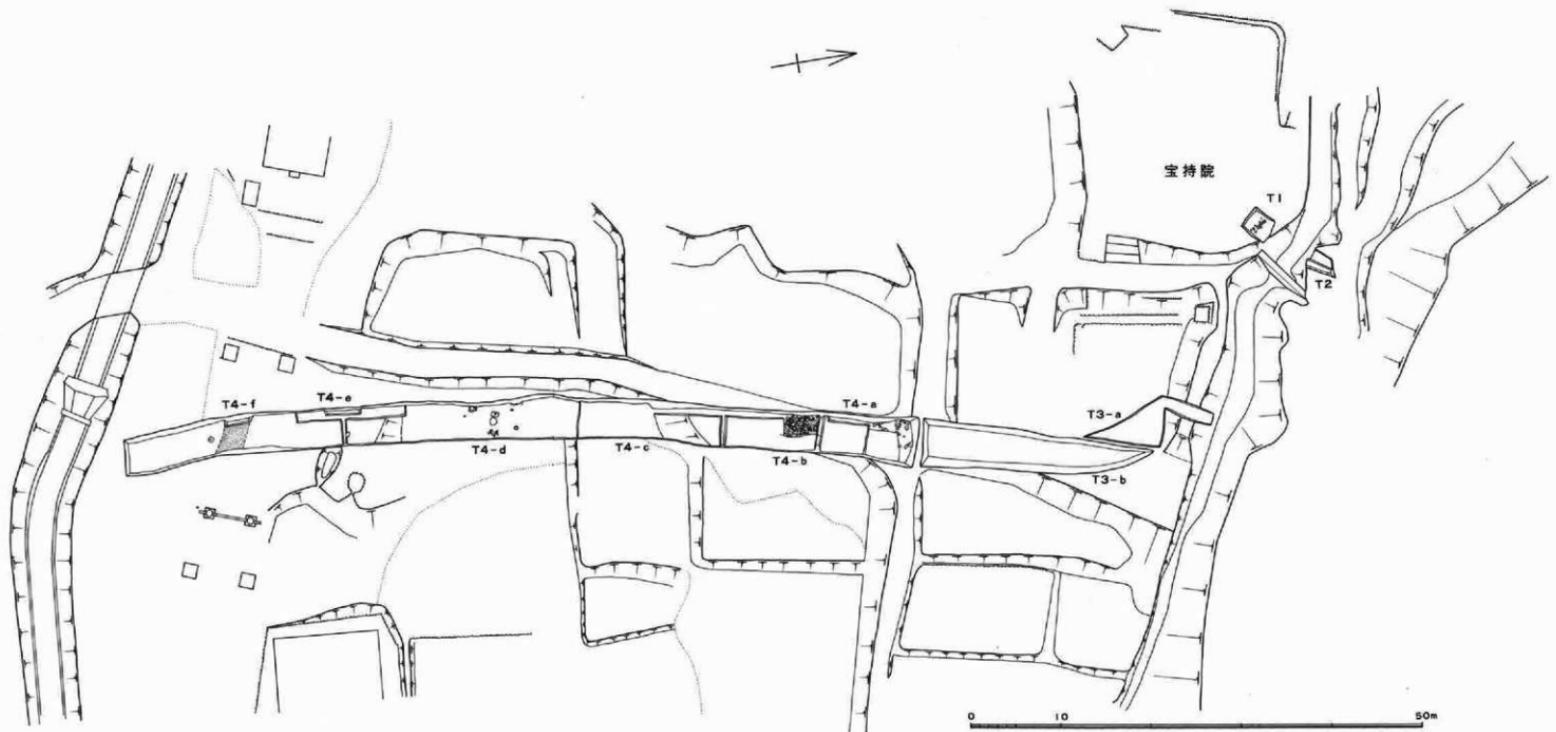
調査は水路によって掘削される部分と、コンクリートの砂防堤によって掘削される部分について行なった。

T1・T2は砂防施設によって掘削される部分に設定したトレンチで、人力によって掘削した。遺構としては1トレンチで石垣の基底部を検出している。2トレンチでは遺構の検出はなかったが、地山直上で土築壁が伏せて置かれたような状態で出土している。

3・4トレンチはバックホーによって最近の盛土・腐植土層・流土層の除却を行なった。3トレンチはa・bの2区画にわけ、バックホーによる掘削後、人力による精査を行なったが、遺構は検出はなかった。

4トレンチは地形からa～fの6区画にわけ、バックホーによる盛土・腐植土・流土の除却後、人力によって遺構の検出を試みた。その結果aで階段状の配石遺構、b区で廃棄物の投棄場所、d区で掘立柱建物と土壙、e区で土壙と土器つまり、f区で土壙と自然流路を検出した。

4トレンチのd区では、遺構面が上下2層存在し、上層遺構の調査終了後に実施したたちわりによって下層遺構を検出した。

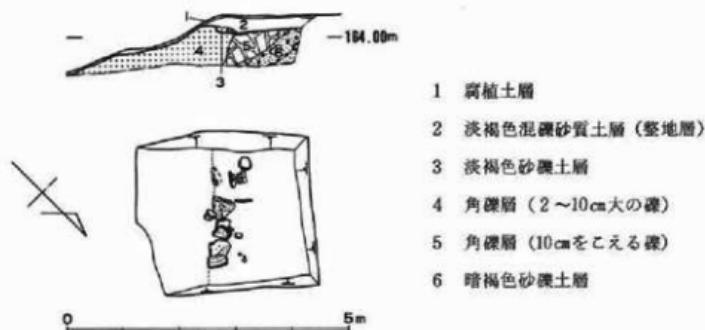


第5図 トレンチ配置図

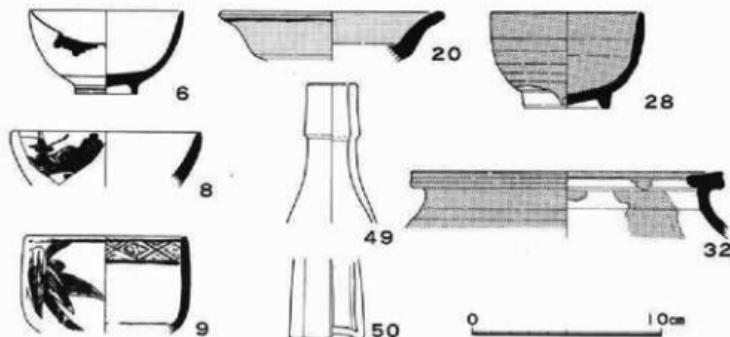
4. 遺構

第1トレンチ (T 1)

旧宝持院の境内、北東辺に設定した $27 \times 3.2m$ のトレンチであり、旧宝持院の北辺を画していたとみられる石垣の基底部を検出した。



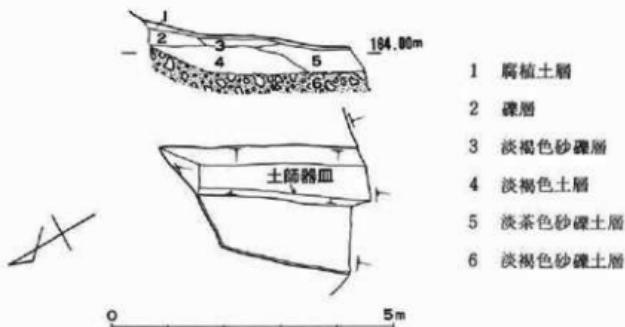
第6図 T 1 遺構実測図



第7図 T 1 出土遺物実測図

石垣は地山を平坦にし、やや掘りくぼめて20~30cm前後の角礫を小口積にしていた。裏込めを認めることは出来なかったが、それが当初からなかつたどうか不明である。地中に埋没している基底部のみの検出であったため、その本来の高さは不明である。が、宝持院の東辺に遺存している石垣から2~3段、50cm前後のものであったと考えられる。

石垣は基底部のみを遺して破壊され、その上に20~30cmの厚さを測る整地層が堆積しており、陶器・磁器・土師器・石臼・瓦・硝子瓶・鉄クギなどを多く含んでいた。この整地層は宝持院全体に及ぶものかどうか不明であるため、石垣の破壊-整地層の堆積の理由について明らかにすることは出来なかった。なお、わずかに1点であるが14世紀代の中国製青磁が出土し、宝持院が1300年代には存在していた可能性が高い。



第8図 T 2 実測図

第2トレンチ (T 2)

宝持院と谷川をへだてた対岸、用田氏の報告によるNo28郭状遺構に設定した22×35mのトレンチで、表土下約50cmで地山を検出した。地山は谷川にむかってゆるやかに傾斜した砂礫層で、遺構は検出しなかったが、地山面上に土師器の灯明皿が伏せて置かれたような状態で出土した。地山直上からは他に陶器灯明皿・鉄クギが出土している。表土の糞植土層からは陶器・磁器・瓦が混在して出土し、付近から廃棄されたものと考えられる。

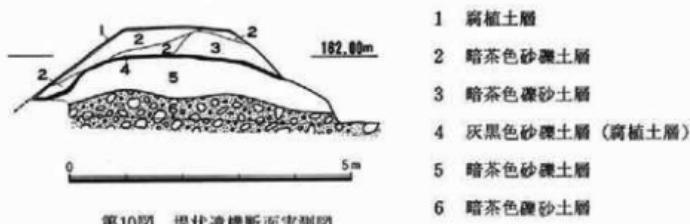


第9図 T 2 出土遺物実測図

第3トレンチ (T3)

5×25mのトレンチで、a・bの2区にわけて掘削し、堤状遺構のたちわりを併せておこなった。

a区 表土をめくると、すぐに暗褐色砂礫層の地山となり、遺構を検出することは出来なかつた。長さ4m、幅1m、深さ1mの規模でたちわりをおこなつたが、全く変化は認められなかつた。しかし、宝持院東側の13×13mの平坦面に遺構がなかつたという確証を得ることは出来なかつた。遺物は腐植土層より数片の陶器を検出したにすぎない。



第10図 堤状遺構断面実測図

堤状遺構 長さ15m、底部の幅6m、頂部の幅2m、高さ1.6mの規模をもつ。この堤状遺構の性格と造営時期を知るため、幅2m、長さ6mのたちわりを実施した。

その結果、堤状遺構の盛土中に腐植土層が存在することを確認し、盛土が前後2時期にわたるものであることが判明した。しかし、遺物を検出することができず、第1次盛土、第2次盛土の時期を知ることは出来なかつた。そして、その性格は盛土が乱雜であることと、谷川の部分にのみあることから、軍事的な性格をもつた土塁といったものではなく、谷川の増水を防ぐために作られた堤防のようなものと考えられる。

b区 最近の盛土層とその下の腐植土層を除却するとすぐに地山であり、遺構・遺物を検出しなかつた。

第4トレンチ (T4)

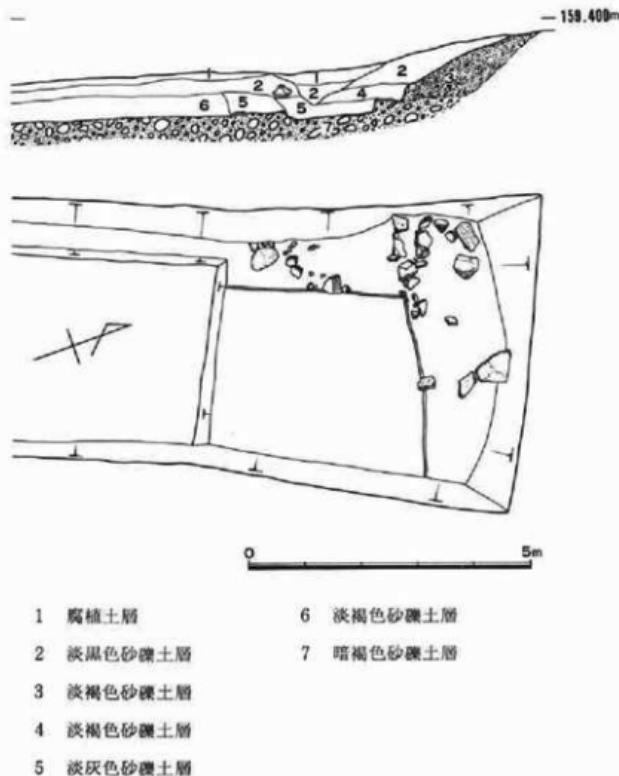
清瀧神社参道から宝持院参道にかけて設定した幅4m、長さ87mのトレンチで、地形などからa～fの6区にわけている。

a区 元禄13(1700)年に画かれた清瀧絵図にみられる参道の一部にたちわりを加えることが出来た。参道は淡茶色の混礫土を盛って作られており、その基底部で検出した配石は、参道に関係する階段などの残存部とも考えられるが、一部しか検出することが出来ず、かつ遺存状況も悪

かったために、その性格を明らかにすることは出来なかった。

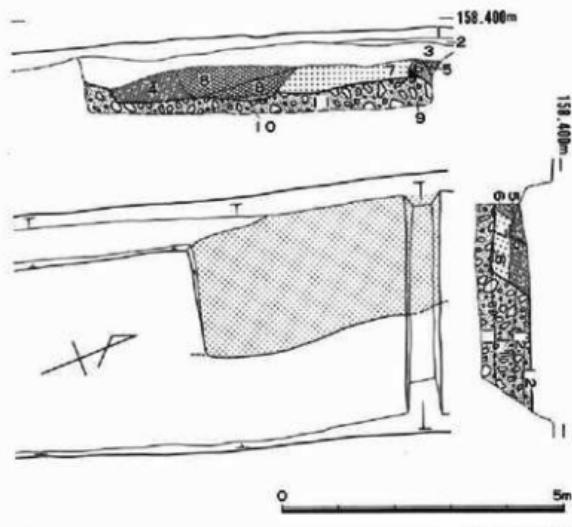
土層は参道部分が盛土である他は、すべて流土であった。遺物はすべて流土中より出土し、盛土中には認められなかった。陶器・磁器・瓦・鉄クギ・煙管吸口・寛永通宝・低石・五輪塔・宝篋印塔などが出土した。

五輪塔と宝篋印塔の存在は付近に墓地があったことを示すものであろう。また、図版T 4 - (16・17) の陶器壺片は石塔に接して出土したことから、藏骨器ではなかったかと思われる。付近にあった墓地が破壊され、その遺物が流入したものであろうか。



第11図 T 4 - a 区遺構実測図

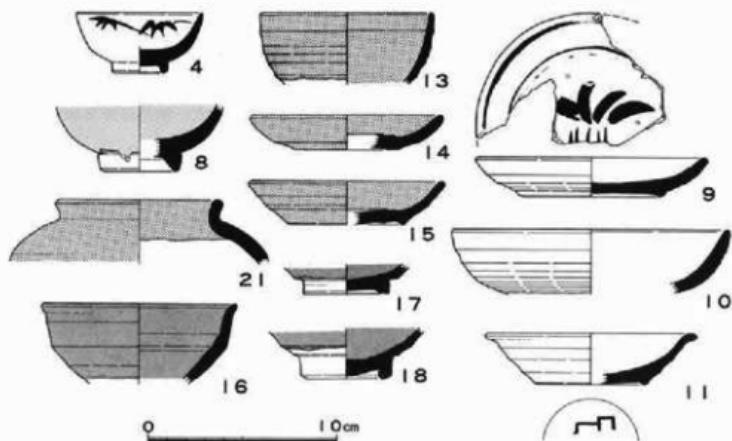
b区 盛土と流土を除却すると、幅23m・長さ4mをこえる落込みを検出した。落込みは全壊することが出来たわけではないので、その全体のプランは不明である。落込みの内部には礫が投棄されたような状態で出土し、それに混在して陶器・磁器・鎌・鏡などが出土した。覆土はきわめて鉛線しており、炭化物・暗黄色粘質土などがブロックで入っていた。性格は廃棄物の投棄場所と考えられる。時期は特定することが出来ない。



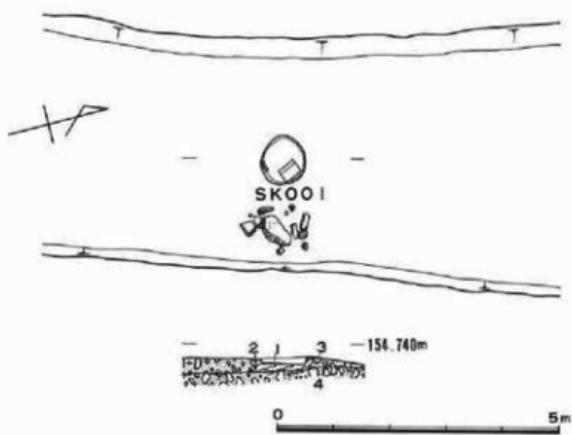
- | | |
|---------------------------|------------|
| 1 盛土層 | 7 淡褐色砂礫土層 |
| 2 淡黒色砂礫土層 | 8 淡褐色礫層 |
| 3 淡褐色砂礫土層 | 9 炭化物層 |
| 4 淡褐色砂礫土層(赤褐色粘質土をブロックで含む) | 10 暗黄色粘質土層 |
| 5 暗茶色砂礫土層 | 11 淡褐色砂礫層 |
| 6 明赤橙色砂礫土層 | 12 淡茶色砂礫層 |

第12図 T4-b区遺構実測図

c区 当初、礫石かと考えられた30cm大の礫が存在していたが、流土中に包含されていたものであることが判明し、礫石でないことが明らかとなつた。また、地山までたちわったが、遺構・遺物を検出することは出来なかつた。



第13図 T 4 - b 区出土遺物実測図



1 炭化物混り暗茶色砂質土層

3 暗褐色砂礫土層

2 暗黄色粘質土層

4 暗褐色砂礫土層

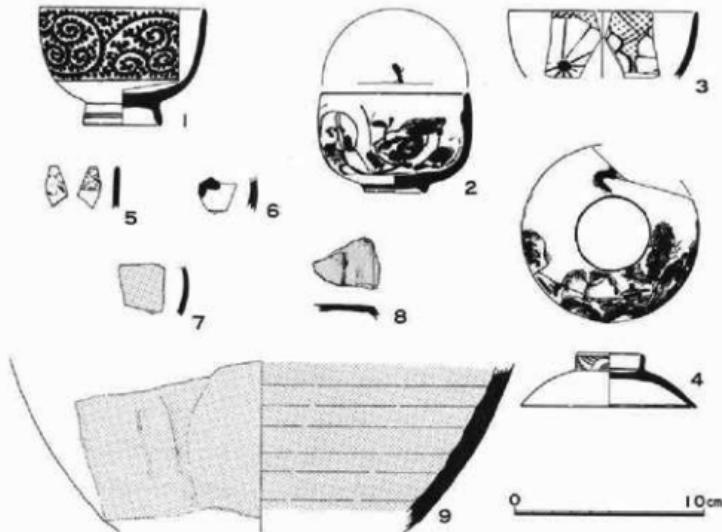
第14図 T 4 - d 区上層遺構実測図

d区 上下2枚の遺構面を検出した。上層遺構SK001は流土を掘りくぼめ、そこを暗黄色の粘質土を埋めて、その中に90×80cm・深さ15cmの円形の土壙を作っていた。壙底には完形の瓦が一枚おかれ、壁には破片が一個はりつけられていた。土壙の埋土は炭化物混りの暗茶色砂質土で、磁器碗・蓋・陶器鉢・古鏡・農具資金具?・極管などが含まれていた。2点の瓦は意図的に置かれたものであることは確かであるが、その他のものはそのように思われない。また単に廃棄物を投棄したにしては土壙が入念に作られている。この土壙の性格は不明と言わざるをえない。時期は4の磁器蓋から近代より古くならないと言える。なお、土壙の西側に礫の集積があったが性格は不明である。

下層遺構は地山の確認のためのたちわりを実施したさいに検出したもので、たちわりによってSP002・003の大半を破壊してしまった。

SP001 方形の掘方で幅70cm、深さ50cmを測り、内部に直径20cm、残存高35cmを測る柱根が遺存していた。

SP002 プランは不明であるが方形と考えられる。幅90cm、深さ50cmを測り、内部に直径23cm、残存高29cmを測る柱根が遺存していた。



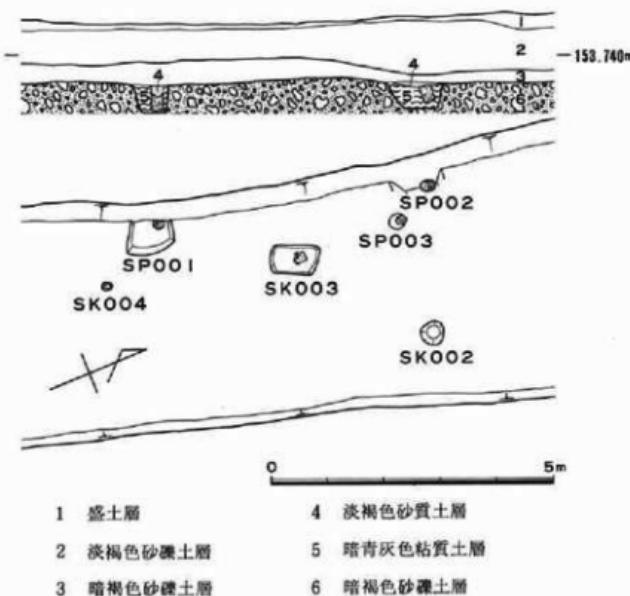
第15図 T 4 - d 区上層 SK001 出土遺物実測図

SK003 たちわりによって掘方の大半を破壊してしまい、土壌の一部が円形に遺存していただけだったので、掘方のプラン・規模は不明である。直径22cm・残存高28cmを測る柱根が遺存していた。

SK002 円形の土壌で径45cm・深さ18.5cmを測る。覆土は暗灰褐色の砂質土である。

SK003 長方形のプランをもつ土壌で幅90×25cm・深さ8.4cmを測る。土壌内には20cm大の角礫が1個あった。覆土は暗灰色の粘質砂である。

SK004 円形のプランをもつ土壌で径20cm・深さ6.4cmを測る。覆土は暗灰褐色の砂質土である。



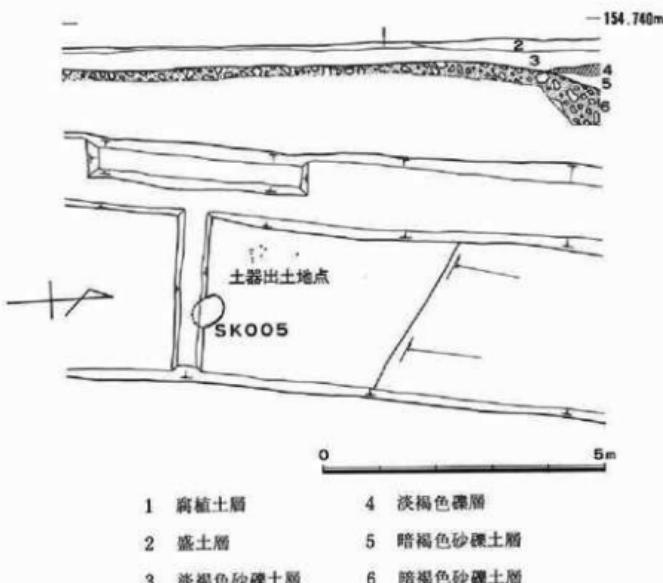
第16図 T 4 - d 区下層遺構実測図

SP001~003 は掘立柱の建物と考えられ、清流絵図に護摩屋敷と記されている茅葺建物に相当する可能性がある。SP001とSP002は同一の建物と考えられ、柱間は5mを測る。SP003は前者と違う時期の建物と考えられる。遺物は下層遺構を覆う流土から3片の瓦を検出しただけであり、時期を特定できない。おそらく江戸時代と言えようか。

SK002～004については性格・時期とも不明であるが、掘立柱建物と同一の面にあることから、同時期のものである可能性がきわめて高い。

e区 表土をめくると地山となった。遺構としては土壙SK005を検出した。SK005は小判形の土壙で径45×60cm・深さ10.5cmを測る。覆土は暗褐色の砂質土であり、内部に瓦の細片が1個入っていた。

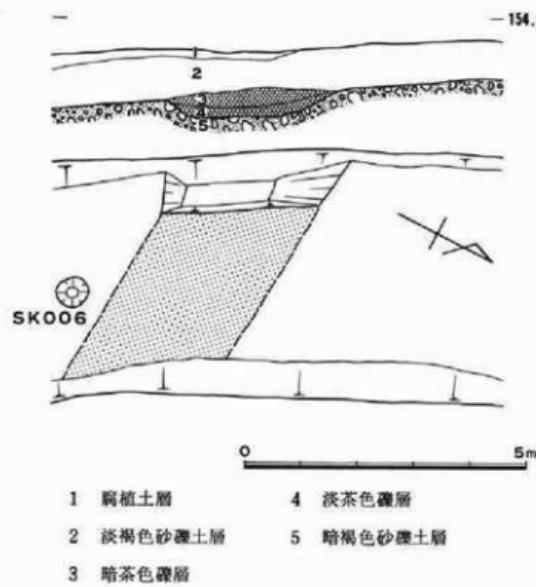
なお、土器だまりがあり、瓦・土師器軸・須恵器甕を検出した。混入と考えられる瓦を除外すれば、すべて古墳時代後期のものであり、付近に古墳後期の生活跡が存在したものと考えられる。



第17図 T4-e区遺構実測図

f区 自然流路と土壙SK006を検出した。自然流路は幅2.4m・深さ0.5mを測り、その中は全くの無遺物であった。SK006は円形のプランをもつ土壙で径50cm・深さ24.6cmを測る。覆土は暗茶色の砂質土であり、土師器の微細な破片を含んでいた。遺物はSK006の土師器細片の他には腐植土層から検出した陶器片が一片あるのみである。

(古川 豊)



第18図 T 4 - f 区遺構実測図

註

- ① 用田政晴『近世坊跡の一様相 山東町清滝所在宝持坊遺跡の調査』「滋賀文化財だより」No.92 1984
- ② 山東町清滝区有の絵図による。

5. 遺物

古墳時代後期から近代にかけての多種多様な遺物が出土した。その内訳は須恵器5・土師器21・黒色土器1・陶器201・瓦質陶器1・磁器65・半磁器21・硝子器2・瓦72・鉄釘4・鍵1・貴金属1・錫1・板状鉄製品1・円環形銅製品1・煙管2・古鏡4・砥石1・石塔3・石臼1・柱根3である。これらの遺物は宝持坊遺跡の性格と推移を示すものと思われるが、報告者の力量によって概略的な記述しか出来ないことを断わっておきたい。なお、個々の遺物については観察表を参照されたい。

1. 古墳時代の遺物

T4-c区で検出したもので、付近に生活跡があったものと考えられる。土師器には2次的な加熱の痕跡が認められる。須恵器の窓は調整・焼成などから2~3個体あったと考えられる。時期は限定できないが、6世紀後半~7世紀前半頃と考えられる。

2. 中世の遺物

中世と古い得るものは7点ある。14世紀の遺物としてT1整地層の中国製青磁(20)、T4-b区包含層の瀬戸瓶(22)、T4-f区表土層の瀬戸瓶子(1)、16世紀の遺物としてT1整地層の碗(28)、T4-b区包含層の碗(13)、皿(14・15)がある。



第19図 T4-f区 瀬戸瓶(1)

3. 近世の遺物

(1) 17世紀の遺物

17世紀の遺物は、登窯の志野皿4、天目茶碗3、瀬戸碗1、瓶子1、京焼碗1、伊万里碗1、香が1で、これも12点と数は少ないが、瀬戸・美濃系陶器が主流を占めている様子はうかがえそうである。

(2) 18世紀の遺物

18世紀の遺物は伊万里碗6・皿1・紅皿1・蓋1、波佐見碗6・蓋1、嬉野焼碗2、丹波?窯1、瀬戸香炉1・摺鉢3・鉢3、瀬戸・美濃碗4・皿1・鉢1・摺鉢1で、瀬戸美濃系陶器が17世紀の75%から42.4%に減少し、かわって伊万里・波佐見・嬉野の九州窯の陶磁器が54.5%を占める。伊万里・波佐見の磁器の増加は、これらの窯が海外需要の減少によって国内市場中心となつたことのあらわれであるとみられる。食器は陶器の碗6・皿1に対し、磁器碗12・皿1であり、磁器が食器の主流を占めていることがうかがわれる。

(3) 幕末の遺物

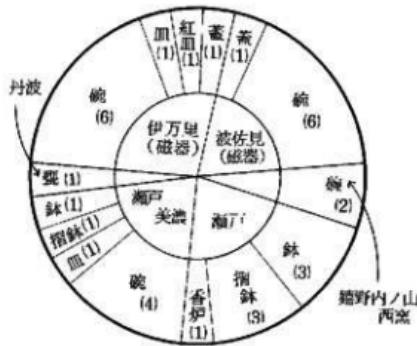
信楽蓋 1、萬古土瓶 1、瀬戸美濃系磁器蓋 2・半磁器碗 1・筒不輪 1・皿 1で、資料が少ないが、瀬戸美濃系磁器が 75% を占め、九州産の磁器がみられない。九州産の磁器がみられないことの理由は不明であるが、瀬戸美濃系磁器がみられることと無関係ではないだろう。

4. 明治時代の遺物

明治時代の遺物は、伊万里碗 4、瀬戸搗鉢 3・鉢 2・磁器蓋 1・碗 1、瀬戸美濃系徳利 1・鉢 2、信楽柿輪土師皿 1 であり、瀬戸美濃系が 66.7% を占めている。



17世紀の遺物内訳



18世紀の遺物内訳



幕末の遺物内訳



明治時代の遺物内訳

第20図 時期・产地別遺物割合図(注記なしは陶器)

5. 土壌SK001の一括遺物について

T4-d区上層の土壌SK001より出土した遺物は伊万里磁器碗4、瀬戸磁器蓋1・瓶1・陶器鉢1・不明品1、产地不明陶器碗1・のし瓦1・平瓦片5、不明古銭2、煙管巻首1、板状鉄製品1、鉄製貴金属1である。一括と言っても18世紀～近代の遺物が含まれており、磁器が伝世されて使用されていたことがうかがえるだけである。その廢棄が同時であることは明確であるが、近代以後としか言えない。

(占川 登)

主要参考文献

- 「国内出土の肥前陶磁」 九州陶磁文化館 1984
- 「日本やきもの集成3」 平凡社 1980
- 「美濃窯の1300年」 美濃陶磁歴史館 1985
- 「幕末・明治の窯業」 瑞浪陶磁資料館 1981
- 『堺環濠都市・市之町西3丁SKT20地点』『堺市埋蔵文化財調査報告書』 No.20 堺市教育委員会 1984
- 「文京区動坂遺跡」 動坂貝塚調査会 1978
- 「波佐見占陶磁文様集」 長崎県窯業試験場編 肥前波佐見焼振興会 1985

なお、本文と観察表の作成にあたって稻垣正宏・上野俊雄・木立雅郎氏の協力と教示を得た。記して謝意を表します。

6. 結 び

本調査地で検出された遺構・遺物についての若干の補足をもって本稿を結びたい。

性格が明瞭な遺構としては、T 1 の石列、T 4-d 区の柱穴SP001~003 の 4 基のみである。

最下段のみ検出された石列は、宝持院境内北東辺を両していた石垣の基底部と考えられるが、それを覆っていた約30cmの厚さの表土中より、磁器21、陶器24、土師器3、硝子瓶2、石臼1、瓦13、金具1、釘2 が出土し、細片ながら多種の遺物である。なかでも、磁器では14世紀代の中国製輸入品と判定できる腹片があり、まだ宝持院境内に埋まる遺物の一端をうかがわせるかのように興味深い。

T 4-d 区の柱穴については、3 基ともに柱根を遺存しており、掘立柱建物が T 4 トレン以北に延びるものと考えられる。

以上の事実から、宝持院および清流12坊の歴史的変遷を探る上で貴重な考古学的資料が追加されたわけであるが、同時に調査の制約的側面をも考慮したい。それは郭状遺構の全面調査ではなく、端部にかかる調査であるということで、当該地の史的究明は59年度既調査にひき続き、その緒につき始めた段階であるといえる。

以上の成をふまえて、若干の興味ある問題に触れてみると、現存する清流絵図にある「渡摩屋敷」なるものが今回出土した掘立柱建物に相当するかということであるが、遺構の年代が確定できなかった現時点では、前章報告者の表現通り、「可能性」の問題としてとどめておかざるを得ないが、遺構が現清流神社境内に立地することから、当社との関係も新たに興味ある問題として浮かんでこよう。

清流寺篤源院および諸坊の沿革については、近く刊行される『山東町史』によって新らたな研究の状況が生まれてくることを期待するが、調査範囲の制約にもかかわらず、多種の遺物を出土した本調査が、今後の埋蔵文化財調査の側面からの期待にもつながると考える。

遺物観察表

T1—整地層

No	器種	器形	技法の特徴(外面・内面)	備考(法量cm,胎土,焼成,色調,產地)
1	磁	碗	外:藍色の呉須で草花文 内:見込み中央に呉須による字	高台径:3.2 胎:密 色:青味 燒:良 伊万里
2	磁	碗	外:藍色の呉須で草花文?	胎:密 色:青味色 燒:良 伊万里
3	磁	碗	外:藍色の呉須で円形幾何学文	高台径:3.4 胎:密 色:青味 燒:良 伊万里
4	磁	碗	外:淡藍色の呉須で草花文	口径:10 胎:密 色:青味色 燒:良 伊万里
5	磁	碗	外:藍色呉須で菱つなぎ文、唐草文	胎:密 色:青味色 燃:良 伊万里
6	磁	碗	外:藍色呉須で圓線3本	口径:8.1 器高:4.4 高台径 3.3 胎:密 色:青味色 燃: 雜砂あり 波佐見
7	磁	碗	外:藍色呉須で草花文里、貫入、内:貫入	高台径:4.4 胎:密 色:青味 燒:雜砂 波佐見
8	磁	碗	外:呉須で草花文	口径:9.9 胎:密 色:白色 燒:良 波佐見
9	磁	碗	外:藍色呉須で圓線と簽団 内:藍色呉須で菱 つなぎ文と西暦	口径:8.6 胎:密 色:青味色 燒:良 波佐見
10	磁	碗	外:藍色呉須で文様?	胎:密 色:白色 燃:良 波佐 見
11	磁	碗	外:青磁 内:圓線2本	高台径:3.8 胎:密 色:白色 燒:良 波佐見
12	磁	蓋	外:藍色呉須で納唐草文 内:藍色呉須で菱 つなぎ文	胎:密 色:白色 燃:良 波佐 見
13	磁	碗	外:色絵の草花文	口径:9 胎:密 色:白色 燃: 良
14	磁	碗	外:円形の文様	口径:12 器高:4.9 高台径:3. 8 胎:密 色:白色 燃:良
15	磁	皿	外:明藍色呉須で文様 内:明藍色呉須で松竹 圓線3本	胎:密 色:白色 燃:良
16	磁	不明	外:藍色呉須で草花文 内:施釉なし	胎:密 色:白色 燃:良
17	磁	蓋	外:藍色呉須で朝顔と建物 内:藍色呉須で花	口径:9.8 胎:密 色:白色 燒:良
18	磁	蓋	外:淡藍色呉須で菊団	口径:9.6 器高:2.7 柱径:3.8 胎:密 色:白色 燃:良
19	磁	香炉	外:青磁、3本の圓線 内:見込み中央に植物 様の彫文様	口径:13 器高:6 高台径:4. 8 胎:密 色:青味色 燃:雜 砂あり 波佐見?
20	磁	皿	外:青磁、圓線、貫入 内:青磁、貫入	口径:12 胎:密 色:白色 燃: 良 中國
21	磁	皿	外:赤絵 内:幾何学的文様	口径:10.6 器高:1.9 高台径

No	器種	器形	技法の特徴(外面・内面)	備考(法量cm,胎土,焼成,色調,産地)
21				口徑：6 胎：密 色：白色 燒：良
22	陶	皿	外：土灰釉、貫入 内：土灰釉、貫入	口徑：9 胎：密 色：白色 燒：良 潤戸美濃
23	陶	皿	外：土灰釉 内：土灰釉	高台径：2.8 胎：密 燒：良 色：白色 潤戸美濃
24	陶	皿	外：土灰釉 贯入 内：土灰釉、貫入	胎：密 烧：良 色：白色 潤戸美濃
25	陶	鉢	外：鐵釉	胎：密 烧：良 色：白色 潤戸美濃
26	陶	天目 茶碗	外：鐵釉 内：鐵釉	胎：密 烧：良 色：灰色 美濃
27	陶	碗	外：灰釉、貫入 内：灰釉、貫入 茶色吳須	胎：密 烧：良 色：淡黄色 京燒鬼
28	陶	碗	外：土灰釉 内：土灰釉、貫入	口徑：7.8 器高：5.1 高台徑： 4.4 胎：砂粒合 烧：良 色： 灰色 潤戸
29	陶	鉢	外：土灰釉 内：土灰釉	胎：密 烧：良 色：暗灰色 潤戸
30	陶	鉢	外：灰釉、貫入	胎：密 烧：良 色：白色 潤戸美濃
31	陶	瓶類	外：灰釉、貫入 内：灰釉、貫入	口徑：2.5 胎：密 烧：良 色： 白色 潤戸美濃
32	陶	壺	外：土灰釉	口徑：16.2 胎：密 烧：良 色： 灰色 丹波？
33	陶	壺	外：鐵釉	口徑：9.2 器高：2.2 胎：密 燒：良 色：灰色 信楽？
34	陶	蓋	外：鉗肌、鐵釉、宝珠形のつまみ 内：鐵釉	口徑：7 器高：2.7 胎：密 燒：良 色：灰色 吳古
35	陶	德利	外：鐵釉で文字	胎：密 烧：良 色：白色
36	陶	德利	外：貫入	胎：密 烧：良 色：白色
37	陶	土瓶	外：鐵釉 内：鐵釉	胎：密 烧：良 色：黄色
38	陶	福鉢	外：鐵釉 内：口1単位19本、鐵釉	胎：粗 烧：良 色：白色 潤戸
39	陶	福鉢	外：鐵釉 内：目	胎：粗 烧：良 色：白色 潤戸 美濃
40	陶	福鉢	外：鐵釉 内：目	胎：粗 烧：良 色：白色 潤戸
41	陶	福鉢		胎：粗 烧：良 色：白色 潤戸
42	陶	壺		胎：粗 烧：良 色：灰色 常滑 ？
43	陶	壺	外：灰釉	胎：粗 烧：良 色：灰色 常滑 ？
44	陶	壺		胎：粗 烧：良 色：灰色 常滑 ？
45	陶	壺		胎：粗 烧：良 色：灰色
46	土師	皿		口徑：11.4 器高：1.6 胎：密

No	器種	器形	技法の特徴(外面・内面)	備考(法量cm, 脱土, 烧成, 色調, 產地)
46				色: 橙色 燃: 故
47	土師	皿	外: 植輪 内: 植輪	胎: 密 燃: 良 色: 橙色 信楽?
48	土師	炮塔	外: 底部にスス	胎: 密 燃: 良 色: 橙色
49	硝子 器	瓶	外: 鋳型接合部の痕跡	口径: 2.7 色: 緑色
50	々	瓶	外: 断面八角形	底径: 4 色: 透明

T2-腐植土層

1	磁	碗	外: 藍色呉須、圓線4本	高台径: 4.1 胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
2	磁	碗	外: 淡色呉須で草花文	胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
3	磁	盞	外: 藍色呉須で鉢唐草と圓線	口径: 9 胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
4	磁	仏龕 器	外: ルリ胎 内: 鉢内面に施釉なし	口径: 6.3 器高: 6.2 脚径: 5 胎: 密 燃: 良 色: 白色 潤戸 ?
5	磁	碗?	内: 接繪染付、菊、竹、梅の紋、幾何学的文様	胎: 密 燃: 良 色: 白色 潤戸 美濃
6	磁	碗	外: 銅板染付。鰐鰐の文様と牡丹、桜花図 内: :銅板染付、山水図	潤戸美濃
7	磁	碗	外: 色松、草花文、圓線 内: 圓線、見込み中 火に幾何学文	口径: 9 器高: 4.3 高台径: 2.8 胎: 密 燃: 良 色: 白色 潤戸美濃
8	磁	皿	外: 藍色呉須で唐草 内: 藍色呉須で植物風圓 口線: 菊花	胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
9	陶	不規	外: 白濁釉系の青経釉 内: 施釉なし	胎: 密 燃: 良 色: 灰色 伊賀
10	陶	灯明皿	外: 施釉なし 内: 灰釉、貯入	器高: 2 胎: 密 燃: 良 色: 灰色
11	陶	搖鉢	外: 鉄胎 内: 目1単位13本	口径: 20.8 胎: 密 燃: 良 色: 白色
12	陶	甕	外: 鉄胎 内: 旗輪なし	胎: 粗 燃: 良 色: 灰色 信 楽?
13	陶	甕		胎: 粗 燃: 良 色: 淡褐色 信 楽?
14	陶	甕		胎: 密 燃: 良 色: 灰色

T2-地山直上

15	陶	皿	外: 底部糸切	口径: 8.2 器高: 1.5 胎: 密 焼: 良 色: 灰色
16	土師	灯明皿		口径: 8 器高: 1.7 胎: 密 焼: 良 色: 淡褐色

T3

No	器種	器形	技法の特徴(外面・内面)	参考(法量cm, 胎土, 烧成, 色調, 產地)
1	陶	甕?	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 烧: 良 色: 黄色
2	陶	鉢?	外: 鉄輪 内: 土灰胎	胎: 密 烧: 良 色: 灰色
3	陶	不明	外: 土灰胎	胎: 密 烧: 良 色: 暗灰色 瀬戸美濃
4	瓦質	鉢?		胎: 密 烧: 軟 色: 灰色

T4-a

1	磁	不明	外: 藍色呉須で菱つなぎ文 内: 藍色呉須で菱つなぎ文	胎: 密 烧: 良 色: 白色 伊万里
2	磁	畫	外: 圓線、藍色呉須、唐草文 内: 圓線、藍色呉須、唐草文	胎: 密 烧: 良 色: 白色 伊万里
3	半磁	筒形碗	外: 藍色呉須 菊花文、圓線 内: 圓線	胎: 密 烧: 良 色: 黄色 瀬戸美濃
4	半磁	筒形碗	外: 藍色呉須、菊花文、圓線 内: 見込み中央に文様	胎: 密 烧: 良 色: 黄色 瀬戸美濃
5	半磁	瓶	外: 藍色呉須 花の文様?	胎: 密 烧: 良 色: 黄色 瀬戸美濃
6	陶	碗	外: 灰胎、貫入	高台径: 5 胎: 密 烧: 良 色: 淡褐色 唐野内山
7	陶	碗	外: 緑釉 内: 鉄輪?	胎: 密 烧: 良 色: 淡褐色 繪野内ノ山
8	陶	碗?	内: 土灰胎	高台径: 8 胎: 粗 烧: 良 色: 灰色 瀬戸美濃
9	陶	碗	外: 土灰胎 内: 土灰胎	口径: 4.6 胎: 粗 烧: 良 色: 灰色 瀬戸美濃
10	陶	碗	外: 鉄輪、灰輪のかけわけ、貫入 内: 灰輪、貫入	高台径: 4.3 胎: 密 烧: 良 色: 白色 瀬戸
11	陶	碗	外: 鉄輪、灰輪のかけわけ、貫入 内: 灰輪、貫入	胎: 密 烧: 良 色: 白色 瀬戸
12	陶	天口茶碗	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 烧: 良 色: 灰色 瀬戸美濃
13	陶	鉢	外: 緑輪 内: 施釉なし	胎: 密 烧: 良 色: 白色 瀬戸美濃
14	陶	鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 烧: 良 色: 黄色 瀬戸美濃
15	陶	鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 烧: 良 色: 黄色 瀬戸美濃
16	陶	畫		胎: 密 烧: 良 色: 橙色 骨蔵器の可能性
17	陶	瓶		胎: 密 烧: 良 色: 灰色 骨蔵器の可能性
18	陶	鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 烧: 良 色: 淡黄色

No	器種	器形	技 法 の 特 徴 (外面・内面)	備考 (法量cm, 茵土, 烧成, 色調, 产地)
18				瀬戸
19	陶	桶鉢	外: 鉄輪 内: 目1単位14本 鉄輪	胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
20	陶	桶鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	口径: 40 胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
21	陶	桶鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
22	陶	桶鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪 目1単位12本	胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
23	陶	桶鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
24	陶	桶鉢	外: 鉄輪 底部糸切 内: 鉄輪	底径: 11 胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
25	陶	桶鉢	外: 鉄輪 内: 鉄輪	口径: 32 胎: 密 燃: 良 色: 淡黄色 瀬戸美濃
26	陶	甕?	外: 鉄輪 内: 鉄輪	胎: 密 燃: 良 色: 白色 瀬戸 美濃
27	須恵	甕		胎: 密 燃: 良 色: 灰色

T4-b

1	磁	蓋	外: 藍色染付、垣根文風の文様 内: 藍色染付 委つなぎ文、幽緑 連の葉	口径: 9.8 器高: 2.8 柱径: 4 胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
2	磁	蓋	外: 藍色染付 花の文様 内: 流水文。藍色呉 須で「寿」字	口径 8.5 器高 2.4 柱径: 3.8 胎: 密 燃: 良 色: 白色 瀬戸 美濃
3	磁	仏頭 器	外: 脚部に呉須の團結	脚径: 4.2 胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
4	磁	紅皿	外: 呉須で筆図	口径: 6.6 器高: 3.2 高台径: 2.9 胎: 密 燃: 雜砂 色: 白色 伊万里
5	磁	碗	外: 藍色呉須で鳥文	胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万 里
6	磁	碗	外: 藍色呉須で筆文	胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万 里
7	磁	碗	外: 淡青緑色の釉 内: 淡青緑色の釉	高台径: 4.1 胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万里
8	磁	碗?	外: 青緑色の釉 内: 藍色呉須で山水図風の文 様	胎: 密 燃: 良 色: 白色 伊万 里
9	陶	皿	外: 刻り出し高台、貫入、長石輪 内: 長石輪 貫入、團線3本 見込みに吉蒲、円錐ピントチ ンの痕	口径: 12 器高: 2.1 高台径: 7.7 胎: 密 燃: 良 色: 白色 志野
10	陶	皿	外: 長石輪 内: 長石輪	口径: 14.6 胎: 密 燃: 良 色: 淡乳桜色 志野
11	陶	皿	外: 長石輪、円錐ピントチンの痕。刻り出し高	筋底端反皿 胎: 密 燃: 良

No	器種	器形	技法の特徴(外面・内面)	備考(法量cm.胎土.焼成.色調.產地)
11			台、底部墨痕 内：長石釉、内銀ビントチンの痕。	色：淡乳橙色 志野
12	陶	碗?	外：吹き出 内：長石釉、貢入	胎：密 焼：良 色：淡乳橙色 志野
13	陶	碗	外：土灰釉、貢入 内：土灰釉、貢入	口径：9 胎：密 焼：良 色：白色 美濃大窯
14	陶	皿	外：土灰釉 内：土灰釉	口径：10 高さ：1.85 高台径：5.4 胎：粗 焼：良 色：淡橙色 美濃
15	陶	皿	外：土灰釉、貢入 内：七灰釉、貢入、胎土目	口径 10.2 高さ：2.3 高台径：6 胎：密 焼：良 色：白色 美濃
16	陶	天日 茶碗	外：黒灰色の鉄釉 内：黒灰色の鉄釉	口径：10.2 胎：密 色：淡黄色 美濃
17	陶	〃	外：黒灰色の鉄釉	高台径：4.4 胎：粗 色：淡黄色 美濃
18	陶	〃	外：暗灰色の鉄釉 内：暗灰色の鉄釉	高台径：4.8 胎：粗 色：黄色 美濃
19	陶	壺?	外：鉄釉 内：施釉なし	胎：粗 色：灰色 焼：良 美濃
20	陶	碗	外：灰釉、凸絞菊唐草、貢入 内：灰釉、貢入	胎：粗 色：灰色 焼：良 京焼
21	陶	壺	外：土灰釉	口径：8.8 胎：粗 色：赤乳白色 焼：良 潤戸美濃
22	陶	瓶子	外：刷毛文様、土灰釉、貢入 内：土灰釉、貢入	胎：密 色：灰色 焼：良 潤戸
23	陶	德利	外：土灰釉 内：土灰釉	高台径：13.3 胎：密 色：灰色 焼：良 潤戸美濃
24	陶	香炉	外：土灰釉	胎：密 色：白色 焼：良 潤戸
25	陶	火鉢	外：あめ釉	胎：密 色：灰色 焼：良 潤戸
26	陶	花瓶	外：鉄釉、灰釉かけわけ 内：鉄釉	胎：密 色：灰色 焼：良 潤戸美濃
27	陶	鉢	外：鉄釉 内：鉄釉	胎：密 色：灰色 焼：良
28	陶	鍋鉢	外：鉄釉 内：鉄釉	胎：密 色：淡黄色 焼：良 潤戸
29	陶	臨鉢	外：鉄釉 内：鉄釉	胎：密 色：淡黄色 焼：良 潤戸
30	陶	拂鉢	外：鉄釉 内：鉄釉	胎：密 色：淡黄色 焼：良 潤戸
31	陶	鉢	外：鉄釉 内：鉄釉	胎：密 色：淡黄色 焼：良 潤戸美濃
32	半磁	青茶 碗	外：藍色具須で菊文、貢入 内：1本の團線、細かな貢入	胎：密 色：高白色 焼：良 潤戸美濃
33	半磁	〃	外：藍色具須で菊文 内：1本の團線	胎：密 色：高白色 焼：良 潤戸美濃
34	半磁	碗	外：藍色具須で草花文、荒い貢入 内：荒い貢	胎：密 色：高白色 焼：良

No	器種	器形	技 法 の 特 徴 (外面・内面)	備考 (法量cm, 胎七, 焼成, 色調, 产地)
		入	-	瀬戸美濃
35	半磁	碗	外:細かな質入 内:見込中央に花文?細かな質入	胎:密 色:薄白色 焼:良 瀬戸美濃
36	上部	皿	-	口径:8.6 高さ:2.0 胎:密 色:淡褐色 焼:軟

T4-SK001

1	磁	碗	外:藍色具須で蛸唐草文、圓線	口径:8.7 器高:6.2 高台径: 4.0 胎:密 色:白色 焼: 良 伊万里
2	磁	碗	外:藍色具須で牡丹、見込中央に文字	口径:7.8 器高:5.3 高台径: 3.1 胎:密 色:白色 焼: 良 瀬戸
3	磁	丸碗	外:藍色具須で斜格子、菊唐草 内:外と同様	口径:10.0 残存高:3.5 胎: 密 色:白色 焼:良 伊万里
4	磁	蓋	外:山水図、網板架付 内:2本の曲線	口径:9.25 器高:2.9 総径: 3.45 胎:密 色:白色 焼:良 瀬戸
5	磁	碗?	外:色絵、朱と金で草花文 内:藍色具須で斐 つなぎ文	胎:密 色:白色 焼:良 伊万里
6	磁	碗?	外:草花文風	胎:密 色:白色 焼:良 伊万里
7	陶	碗	外:灰釉 内:灰釉	胎:密 色:灰色 焼:良
8	陶	不明	外:綠釉と灰釉	胎:密 色:淡黄色 焼:良 瀬 戸
9	陶	鉢	外:灰釉 内:灰釉	復原径:26.8 残存高:7.15 胎: 粗 色:淡黄色 焼:良 瀬戸

T4-e 土器窯

1	須恵	壺	外:擬格子たたき 内:青海波たたき	胎:密 色:青灰色 焼:良
2	須恵	壺	外:擬格子たたき、後、カキ目 内:剥離して 不明	胎:密 色:暗青灰色 焼:良
3	須恵	壺	外:擬格子たたき 内:剥離して不明	胎:密 色:暗青灰色 焼:良
4	須恵	壺	外:擬格子たたき、後、カキ目 内:青海波た たき、後、ナデ	胎:密 色:暗青灰色 焼:良
5	上部	瓶	外:立刷毛 内:横刷毛	胎:粗 色:暗黄色 焼:良

T4-f 腐蝕土

1	陶	瓶	外:円形のスタンプ、スタンプ内に花文、内に 施釉なし 外:灰釉	胎:密 色:暗灰色 焼:良 瀬戸
---	---	---	------------------------------------	---------------------

T1 瓦

1		平瓦	-	胎:粗 色:淡黑色 焼:良
2		平瓦	-	胎:粗 色:淡黑色 焼:良

No	器種	器形	技 法 の 特 徴 (外面・内面)	備考 (法量cm,胎上,焼成,色調,产地)
3		平瓦	外:光沢あり	胎:粗 色:淡黒色 焼:良
4		平瓦	外:細通しの穴あり 内:外と同	胎:粗 色:淡黒色 焼:良
5		平瓦		胎:粗 色:淡黒色 焼:良
6		平瓦		胎:粗 色:淡黒色 焼:良
7		平瓦		胎:粗 色:淡黒色 焼:良
8		平瓦		胎:粗 色:淡黒色 焼:良
9		平瓦	外:細通しの穴 内:外と同	胎:粗 色:黑色 焼:良
10	瓦加工品			胎:粗 色:暗灰色 焼:良
11		平瓦	外:櫛目あり	胎:粗 色:暗灰色 焼:良
12		棟瓦	外:「可」のスタンプあり	胎:粗 色:暗灰色 焼:良
13		棟瓦		胎:粗 色:暗灰色 焼:良

T2 瓦

1		平瓦	外:細通しの穴に鋼線遺存	胎:粗 色:暗灰色 焼:良
2		平瓦		胎:粗 色:暗灰色 焼:良
3		平瓦		胎:粗 色:暗灰色 焼:良

T4-a 瓦

1		平瓦		胎:粗 色:淡灰色 焼:軟
2		平瓦		胎:粗 色:淡灰色 焼:良
3		平瓦	外:櫛目あり	胎:粗 色:淡灰色 焼:良
4		平瓦		胎:粗 色:墨色 焼:良
5		棟瓦		胎:粗 色:黑色 焼:良

T4-b

1		平瓦		胎:粗 色:黑色 焼:良
2		平瓦		胎:粗 色:墨色 焼:良
3		平瓦		胎:粗 色:淡灰色 焼:良
4		丸瓦		胎:粗 色:墨色 焼:良
5		丸瓦		胎:粗 色:灰褐色 焼:良
6		丸瓦		胎:粗 色:灰褐色 焼:良
7		丸瓦	内:布目あり	胎:粗 色:淡褐色 焼:良
8		丸瓦		胎:粗 色:淡灰色 焼:軟
9		軒丸瓦	外:珠文帯	胎:粗 色:淡褐色 焼:良

T4-SK001

1	のべ 瓦?	29cm×31cm	胎:密 色:墨色 焼:良
2	平瓦		胎:密 色:墨色 焼:良
3	平瓦		胎:密 色:墨色 焼:良

No	器種	器形	技 法 の 特 徴 (外面・内面)	備考 (法量cm, 胎土, 焼成, 色調, 產地)
4		平瓦		胎: 密 色: 黒色 燃: 良
5		平瓦		胎: 密 色: 黒色 燃: 良
6		平瓦		胎: 密 色: 灰色 燃: 良

T 4-d

1	平瓦		胎: 粗 色: 灰色 燃: 良
2	平瓦		胎: 粗 色: 灰色 燃: 良
3	平瓦		胎: 粗 色: 灰色 燃: 良

T 4-e

1	平瓦		胎: 粗 色: 淡灰色 燃: 良
	棟瓦		胎: 粗 色: 黒色 燃: 良

石製品

1	研石	人形	
2	五輪塔	水輪	
3	火輪		
4	宝鏡	相輪	

T 1

1	石臼		
---	----	--	--

T 1

1	環状金具	外: 銅製、ロウづけの痕あり	直径: 2.3 幅径: 0.2
2	角釘		残存長: 3.4 太さ: 0.5
3	角釘		残存長: 3.7 太さ: 0.6

T 2

1	角釘		残存長: 1.6 太さ: 0.3
---	----	--	------------------

T 4-a

1	煙管 吸口	銅製	全長: 6.7 直径: 1.1
2	角釘		残存長: 7.3 直径: 0.7
3	豆木 油塗		直徑: 2.3
4	寢永 硝玉	2片に割れている	直徑: 2.3

T 4-b

1	縫		刀部幅: 2.4 残存長: 11.9
2			全長: 7.1 幅: 0.9

T4-SK001

No	器種	器形	技 法 の 特 徴 (外面・内面)	備考 (法量cm. 脱土. 造成. 色調. 产地)
1		方孔 鉢		直径：2.4
2		"		
3		高足 鉢		直径：3.6
4		板状 鉢身 品		大きさ：8×5.1
5		筒管 施首	銅製	全長：6.3 直径：1.3

T4-d SP001 SP002 SP003

1	柱根	円柱	底部に手斧痕あり	残存高：35 直径：19×20
2	柱根	円柱	底部に手斧痕あり	残存高：29 直径：23×16
3	柱根	円柱	底部に手斧痕あり	残存高：28 直径：22×22



調査地遠望（南東から）



調査地近景（東から）



T 4 調査前状況（南から）



T 3・T 4 調査前状況（南から）



T 3・T 4 調査前状況（北から）



T 3 調査前状況（西から）



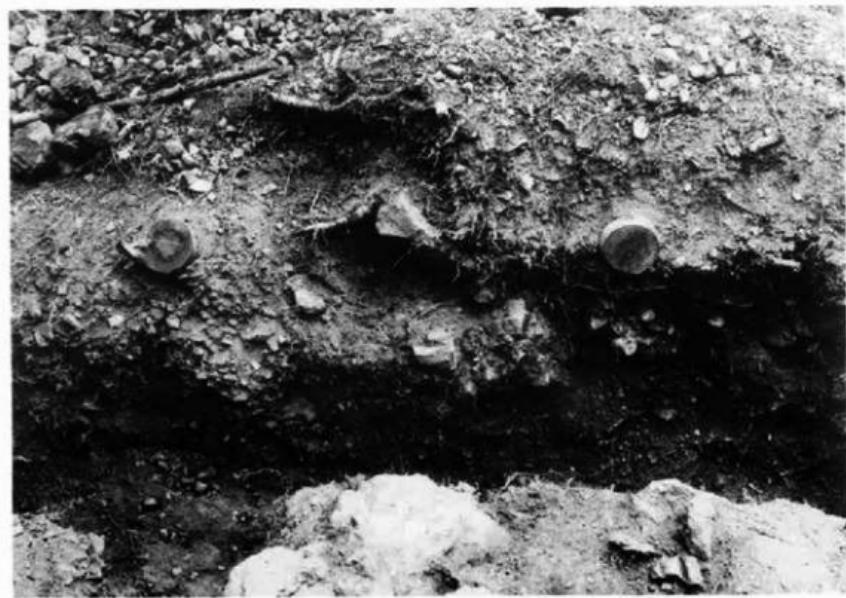
T 2 調査前状況（西から）



T 1 石垣検出状況（南から）



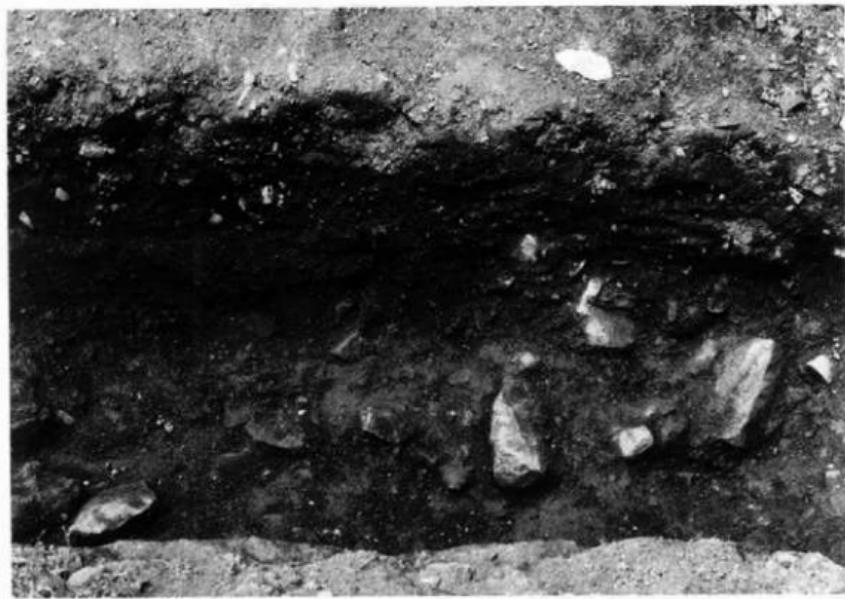
T 1 石垣検出状況（北から）



T 1 石垣下たち割り断面状況（西から）



T 2 トレンチ全景 (南から)



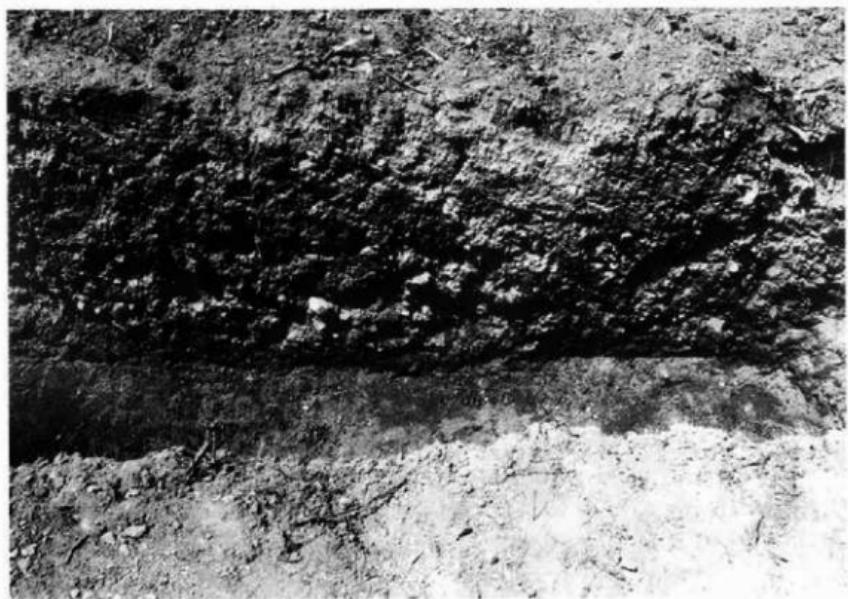
T 2 トレンチ地山状況 (東から)



T 2 土師器出土状況（東から）



T 3 堤状造構たち割り断面状況（西から）



T 3 深掘地点断面状況（南東から）



T 3 - b 区トレーニング掘削状況（東から）



T 4 精査作業状況（東から）



T 4-a 区 石組精査状況（北から）



T 4 - a 区 石組検出状況 (西から)



T 4 - a 区 石組検出状況 (南から)



T 4 - b 区 集石検出状況 (西から)



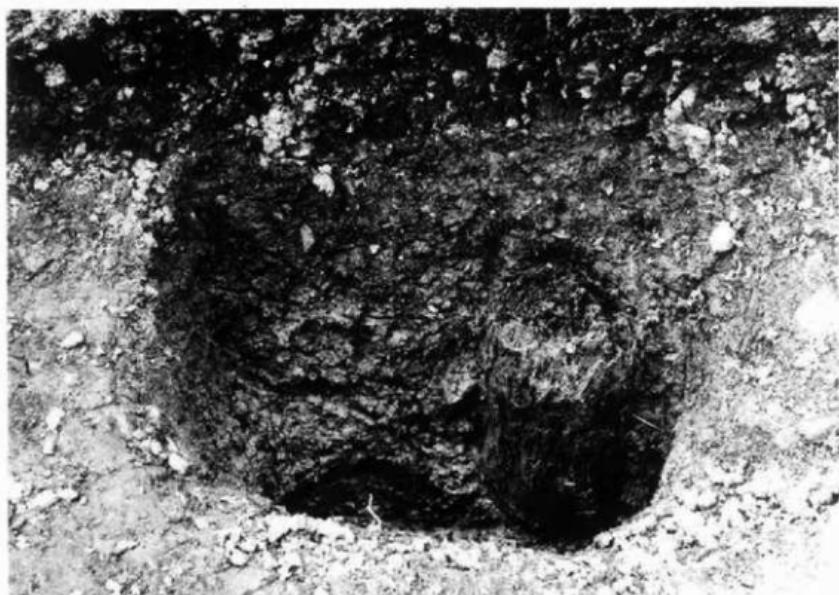
T 4 - b 区 集石検出状況 (東から)



T 4 - b 区 集石中土器出土状況



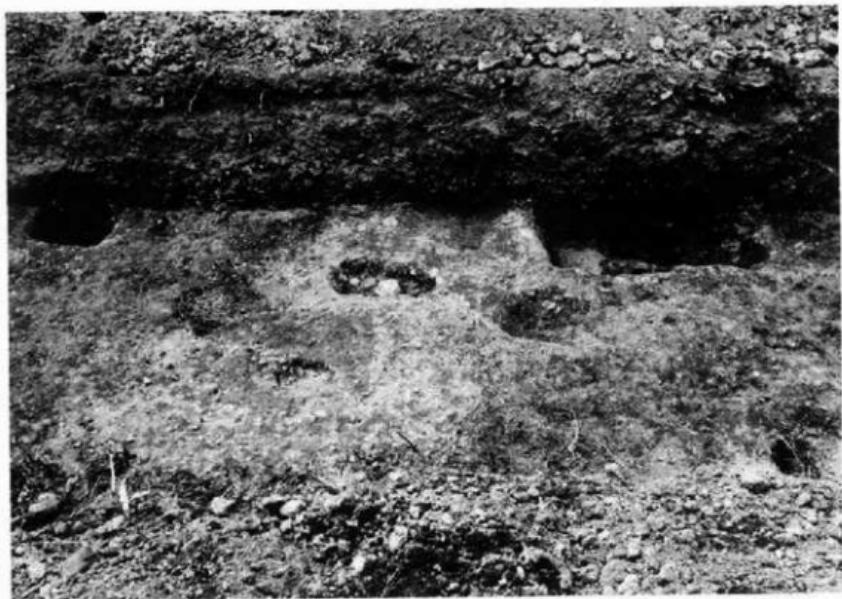
T 4 - d 区 SK 001 瓦出土状況（南から）



T 4 - d 区 SP 001 柱根検出状況 (南から)



T 4 - d 区 SP 002 - 003 柱根検出状況



T 4 - d 区 下層遺構検出状況（南から）



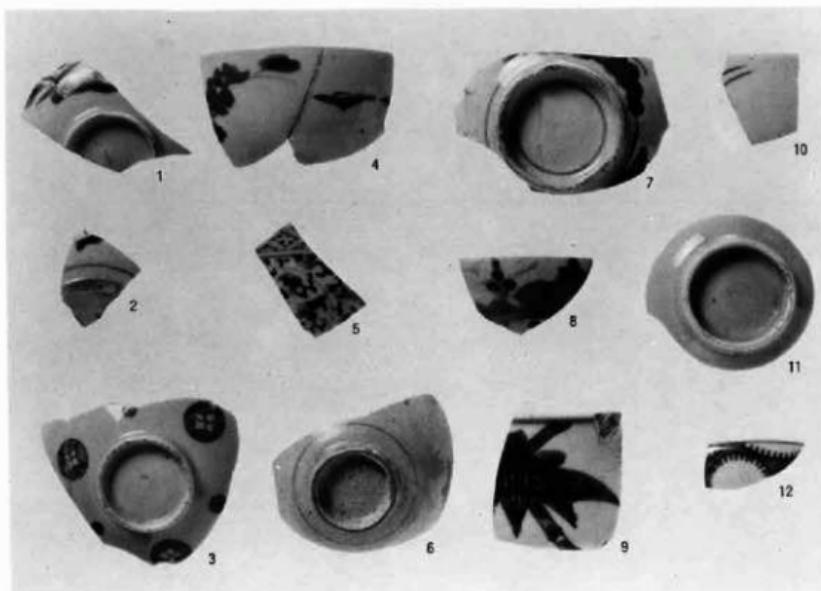
T 4 - e 区 土器群検出状況



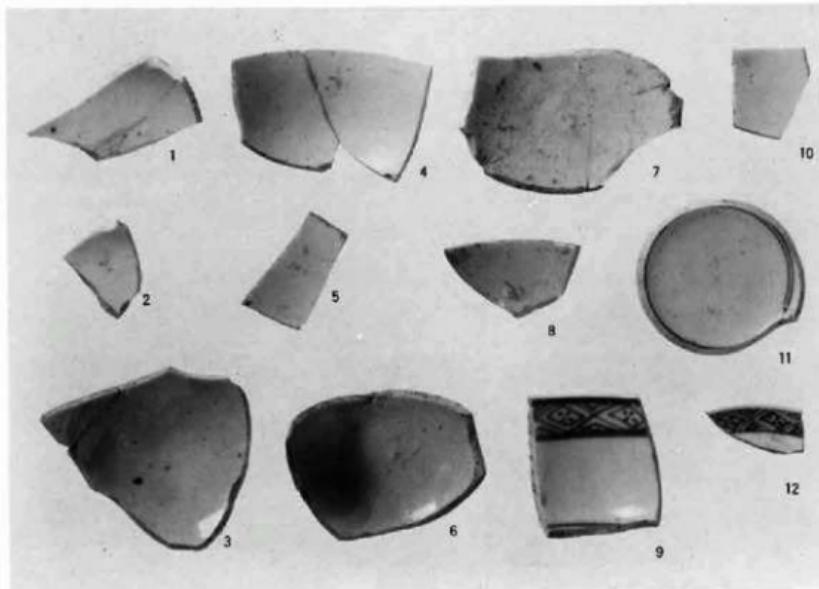
T 4 - e 区 SK 005 検出状況



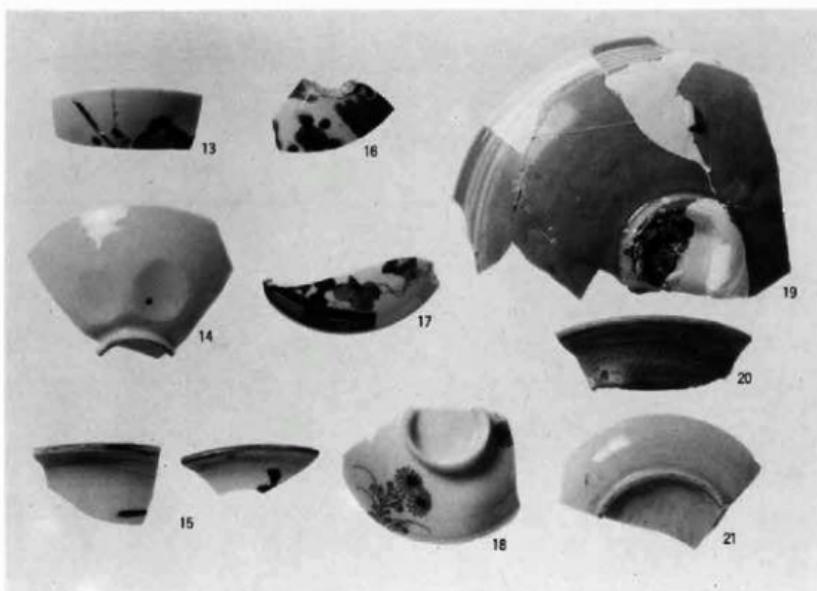
T 4 - f 区 SK 006 自然流路検出状況（南から）



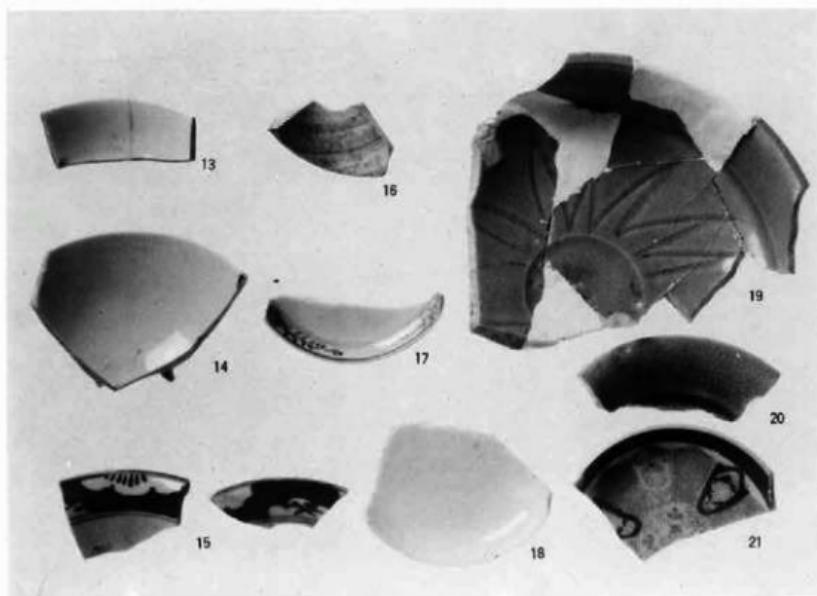
T 1 整地層磁器 (外面)



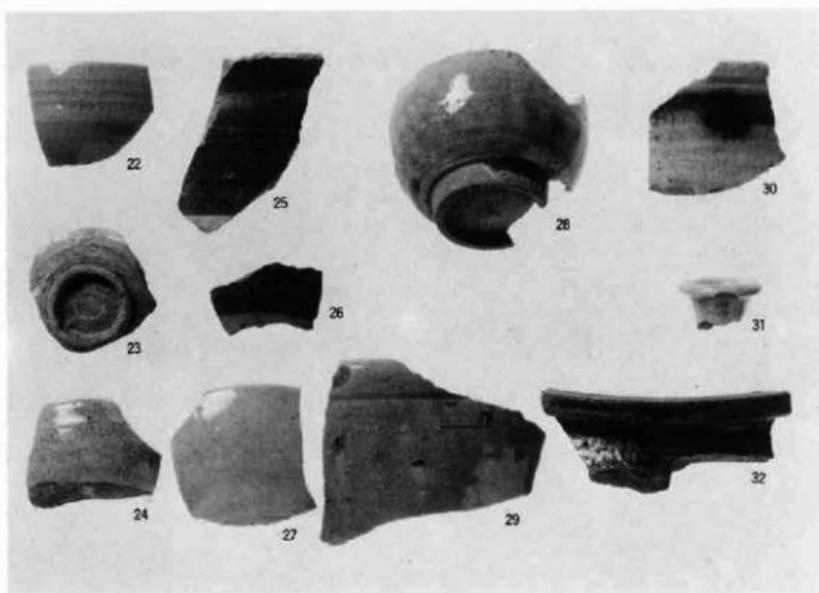
同上 (内面)



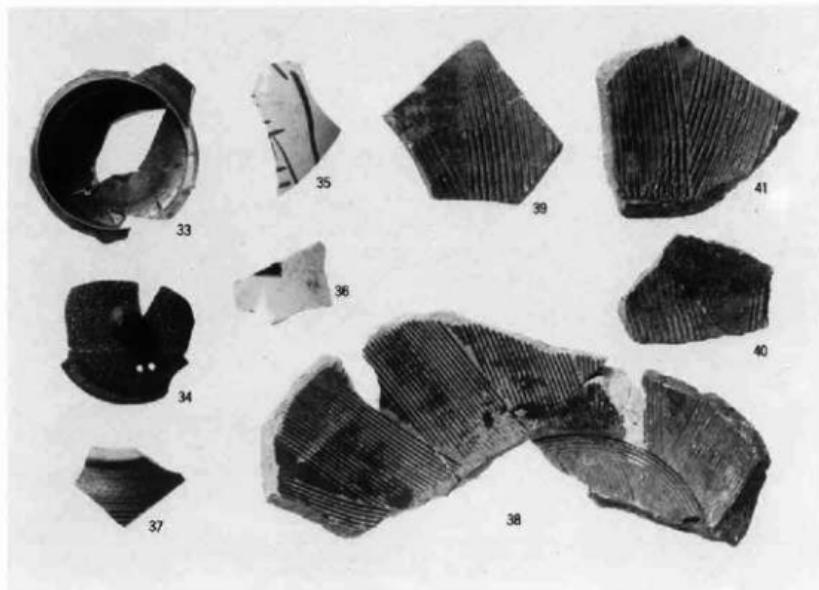
T 1 整地層磁器 (外面)



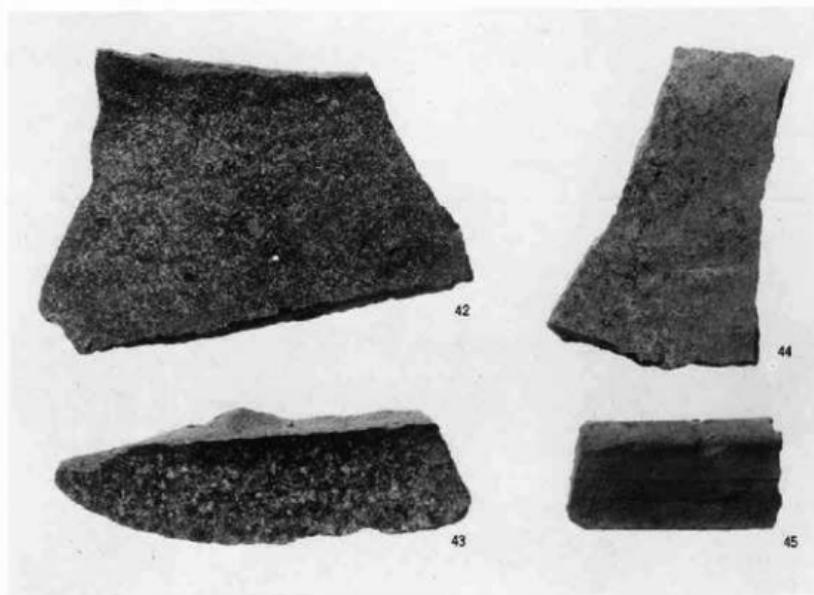
同上 (内面)



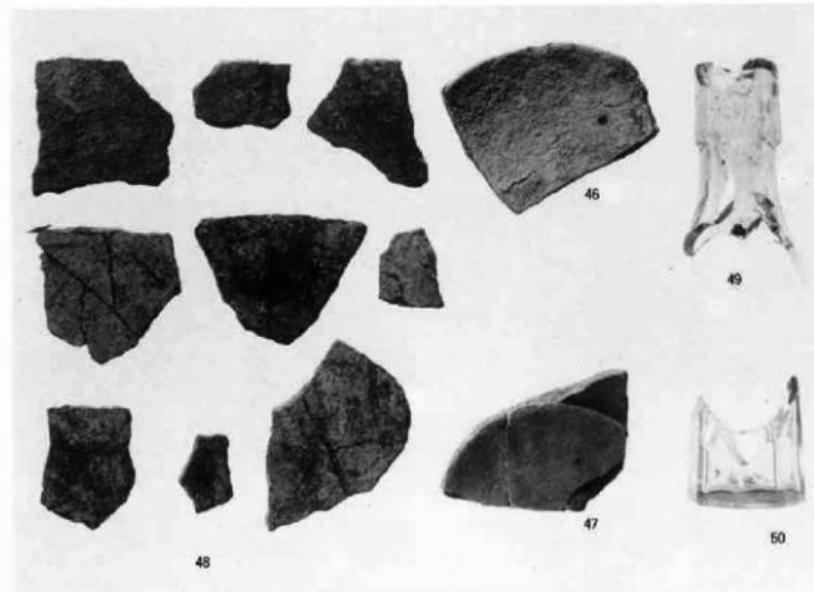
T 1 整地層陶器



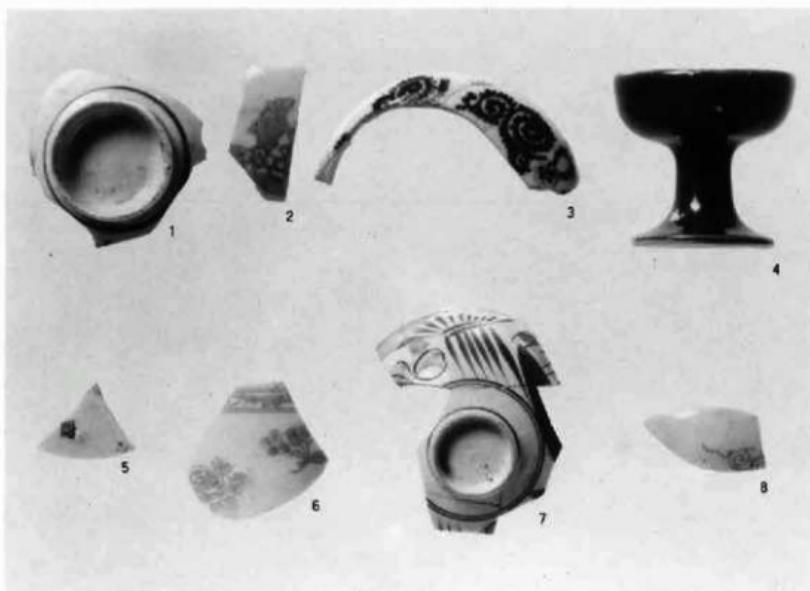
T 1 整地層陶器



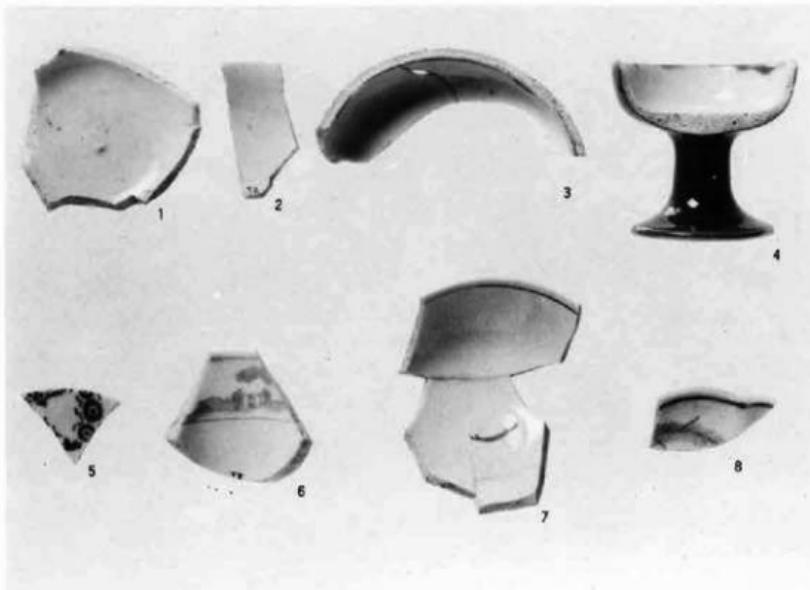
T 1 整地層陶器



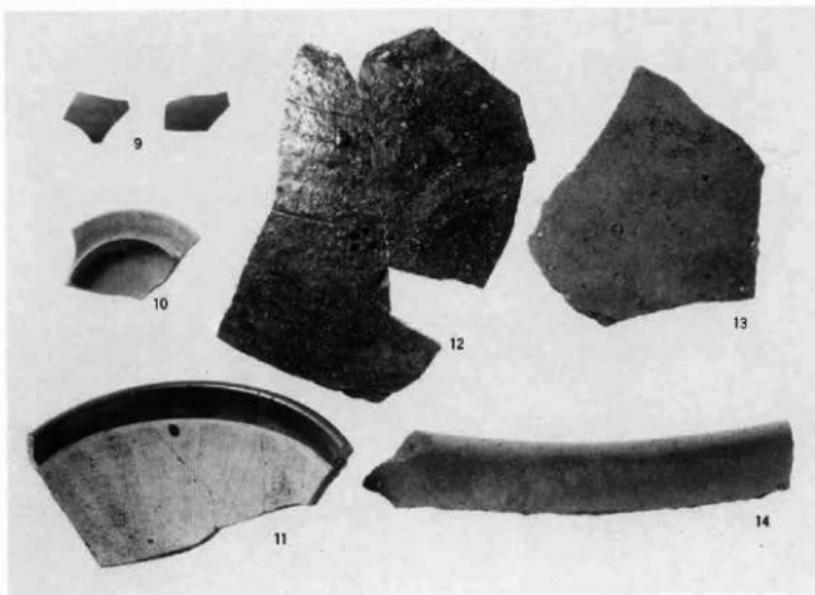
T 1 整地層土師器・硝子瓶



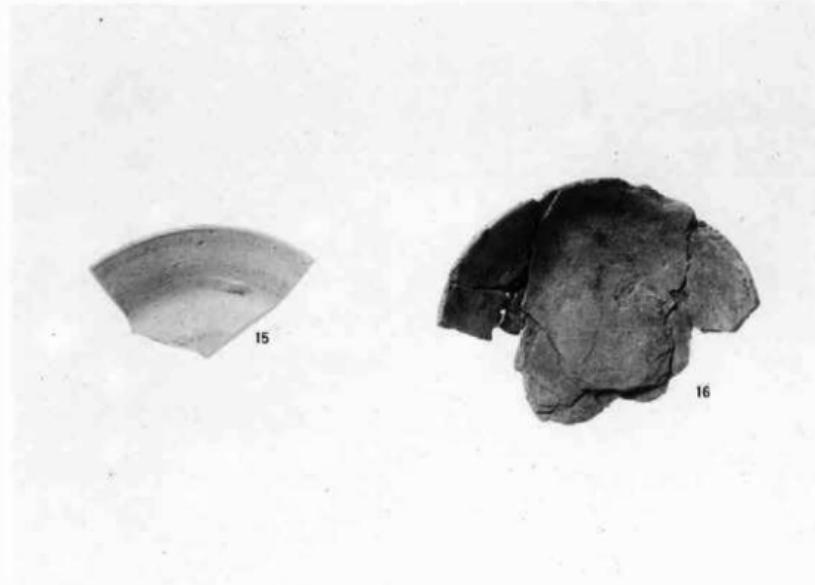
T 2 腐植土層磁器 (外面)



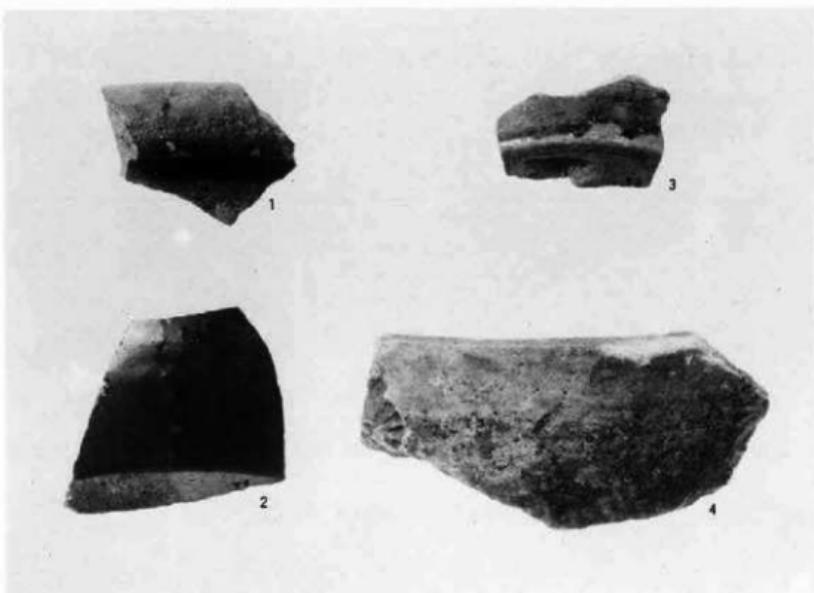
同上 (里面)



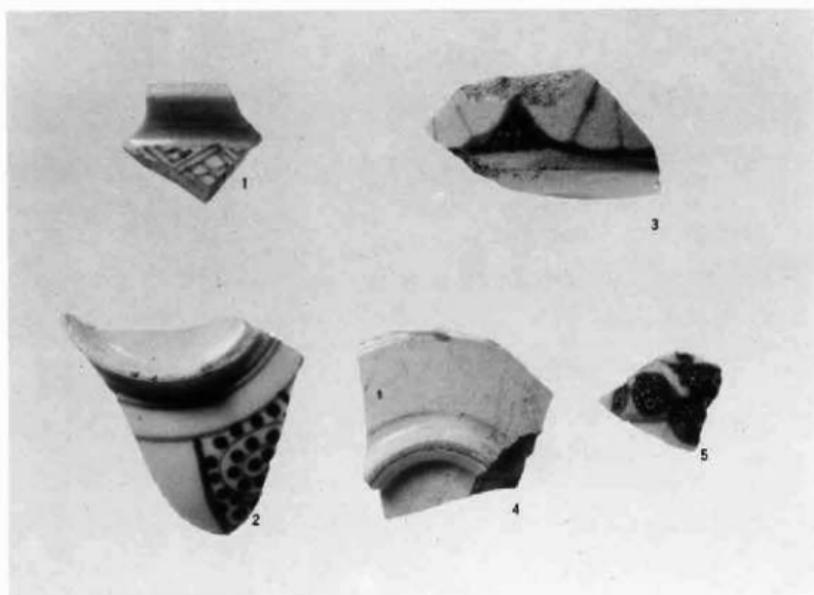
T 2 腐植土層陶器



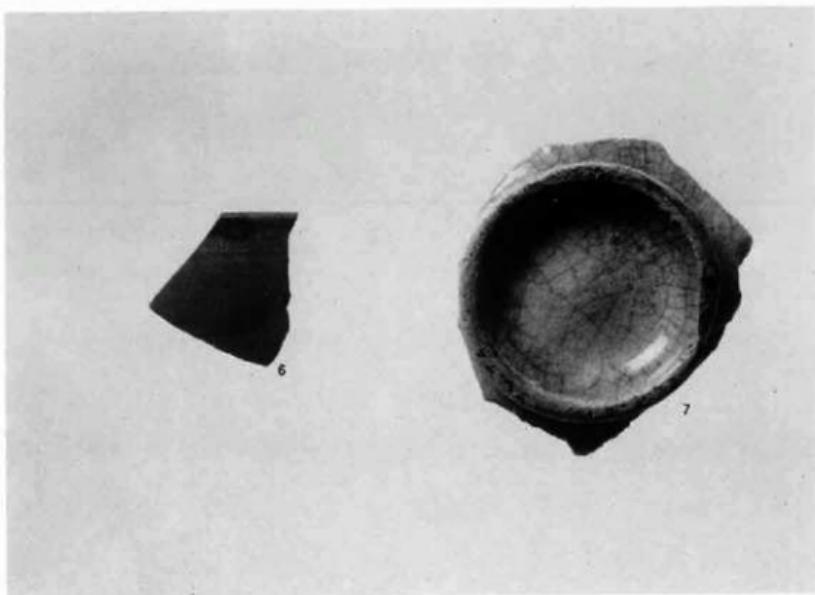
T 2 地山直上陶器・土師器



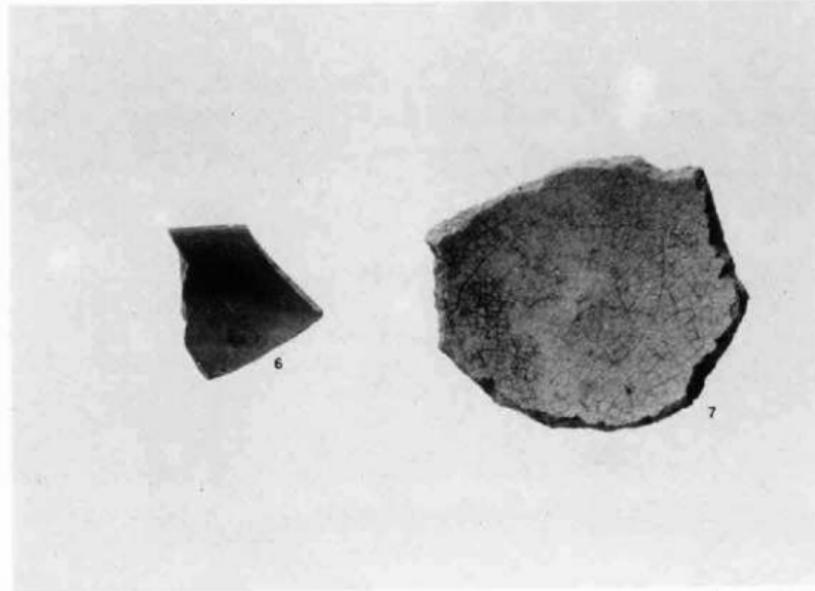
T 3 陶器



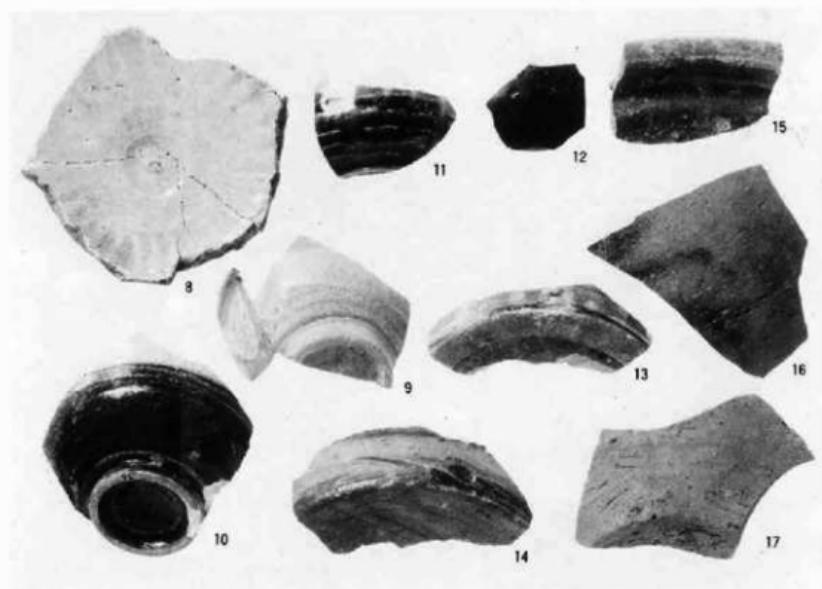
T 4 - a 区 磁器・半磁器



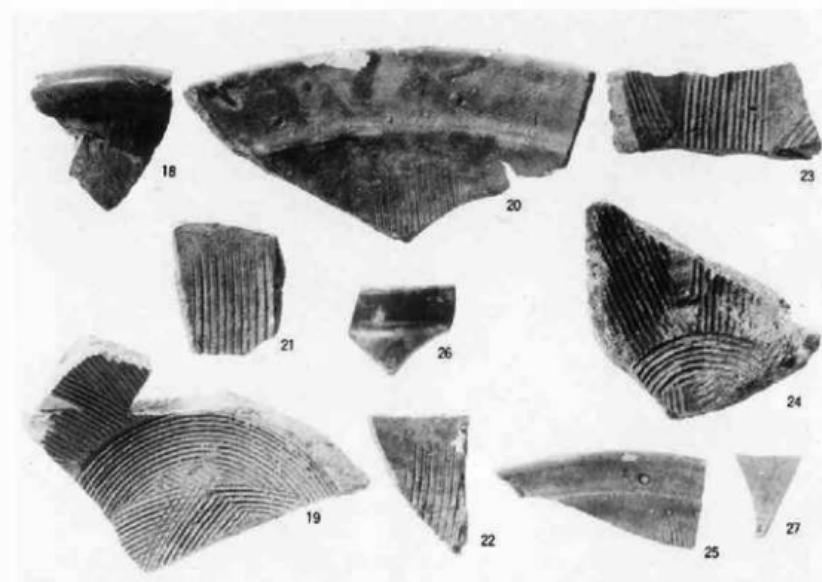
T 4 - a 区 陶器 (外面)



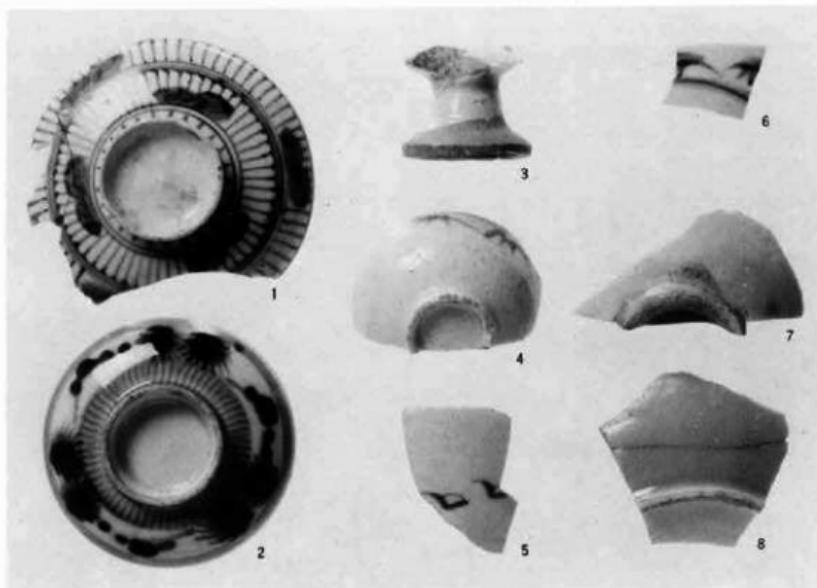
同上 (内面)



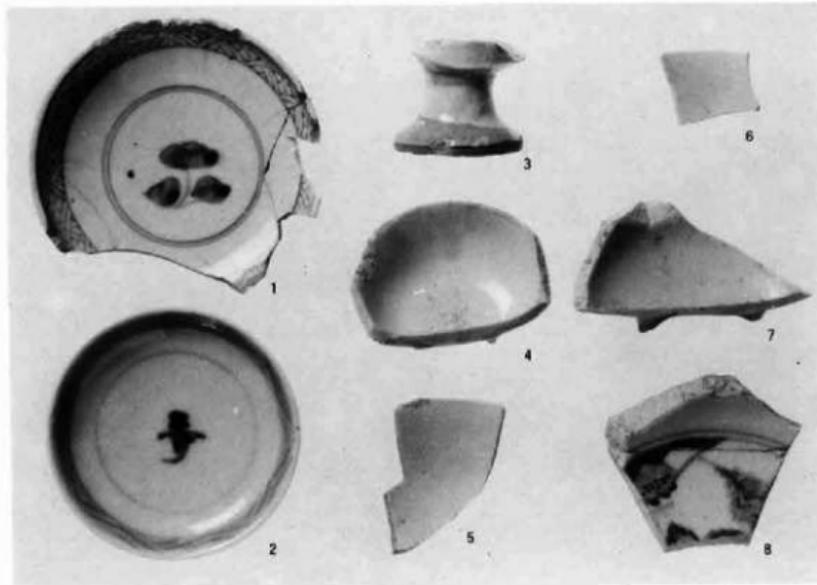
T 4 - a 区 陶器・須恵器



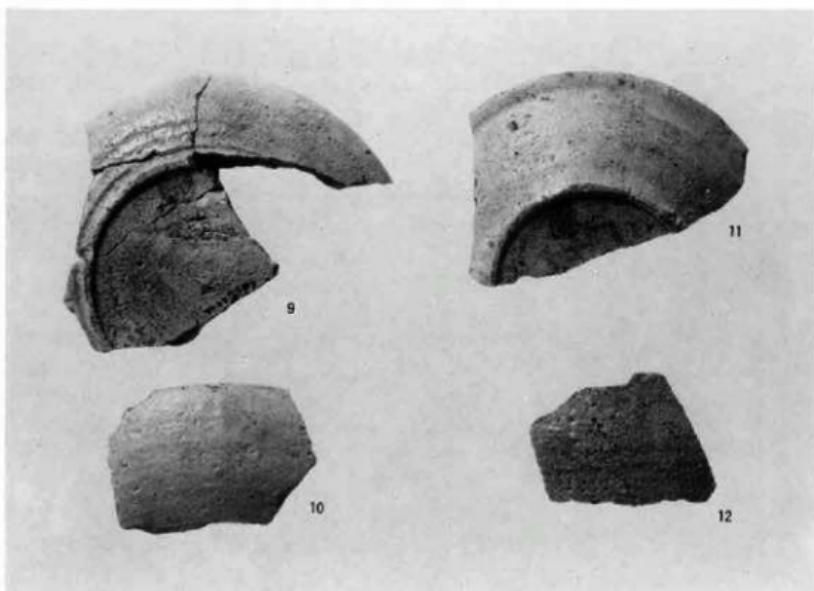
T 4 - a 区 陶器・須恵器



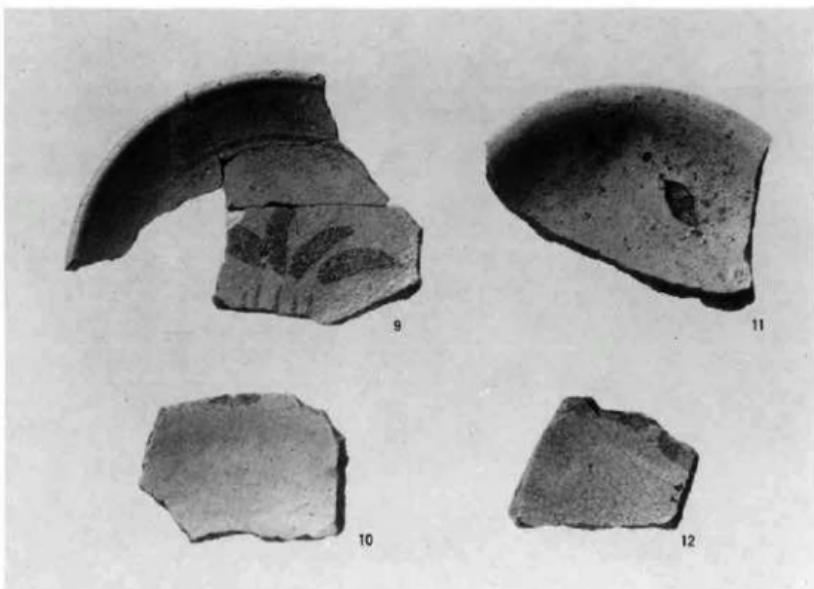
T 4 - b 区 磁器 (外面)



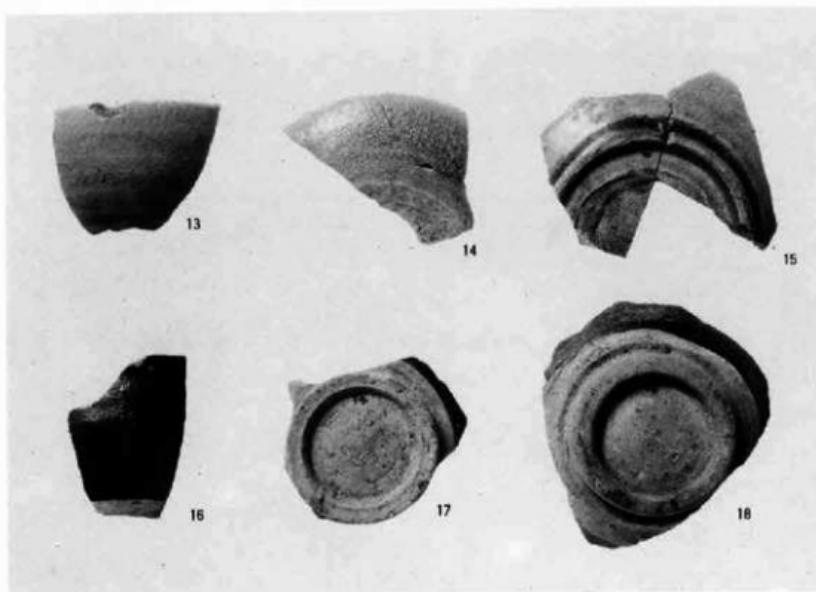
同上 (内面)



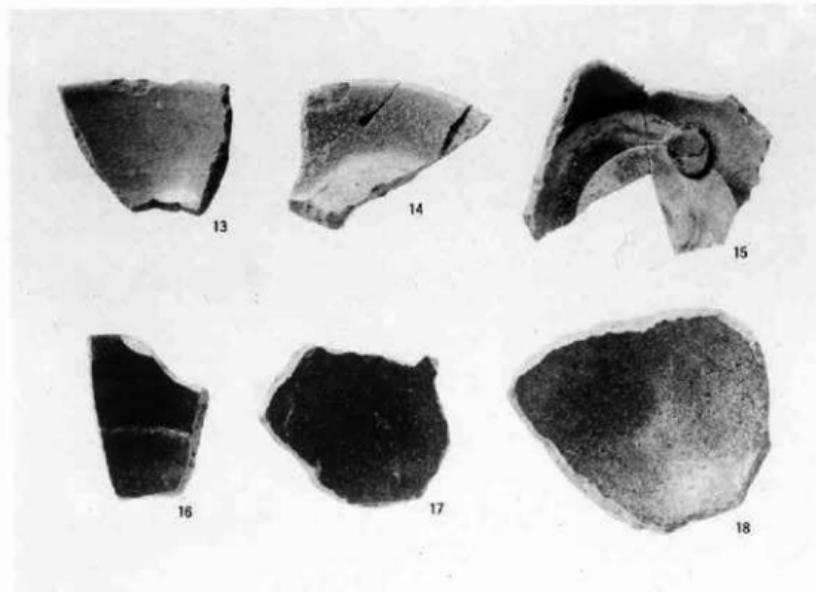
T 4 - b 区 陶器 (外面)



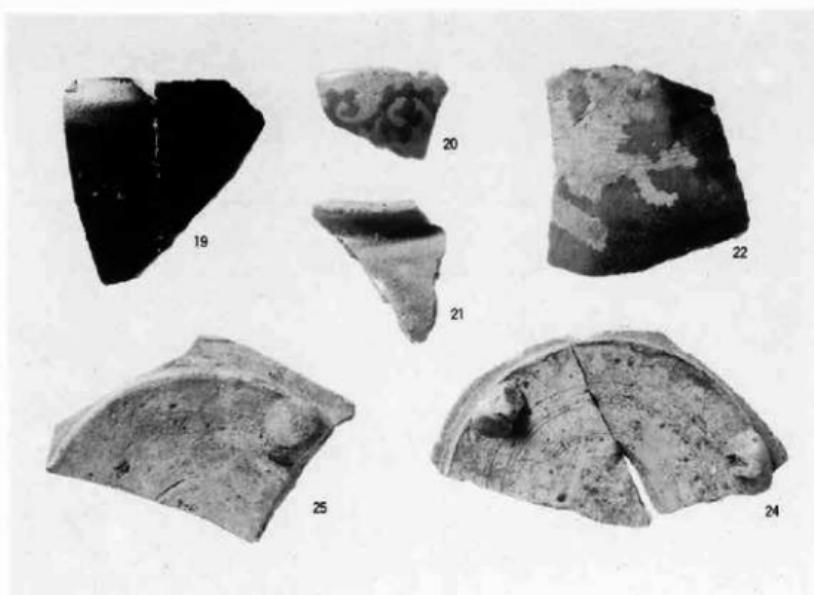
同上 (内面)



T 4 - b 区 陶器 (外面)



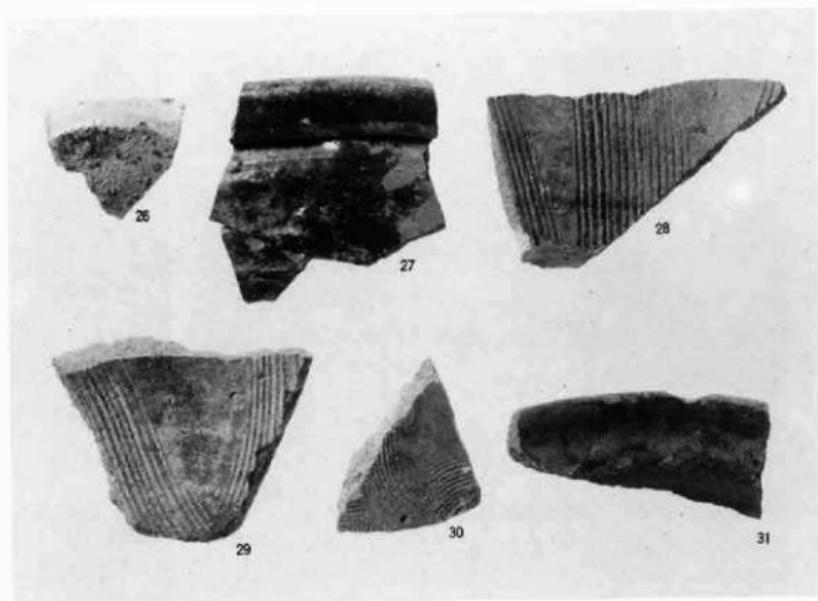
同上 (内面)



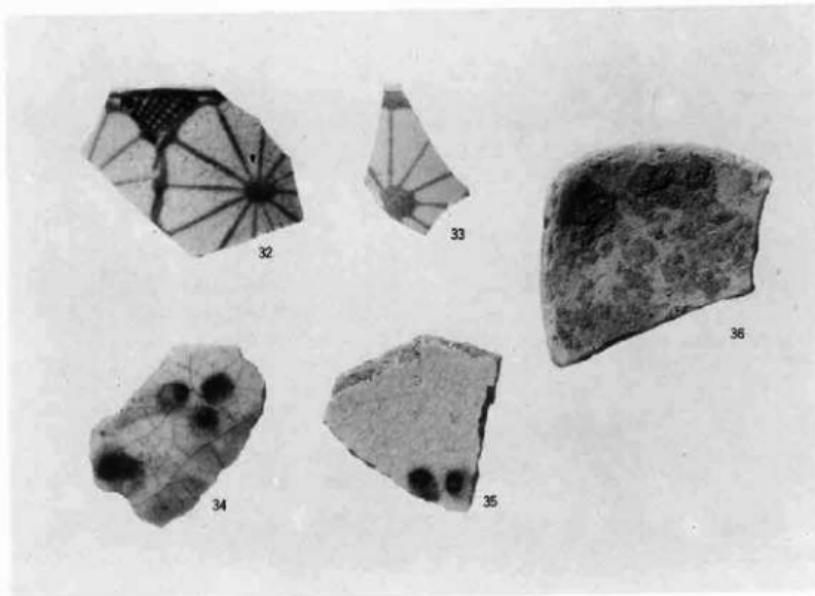
T 4 - b 区 陶器



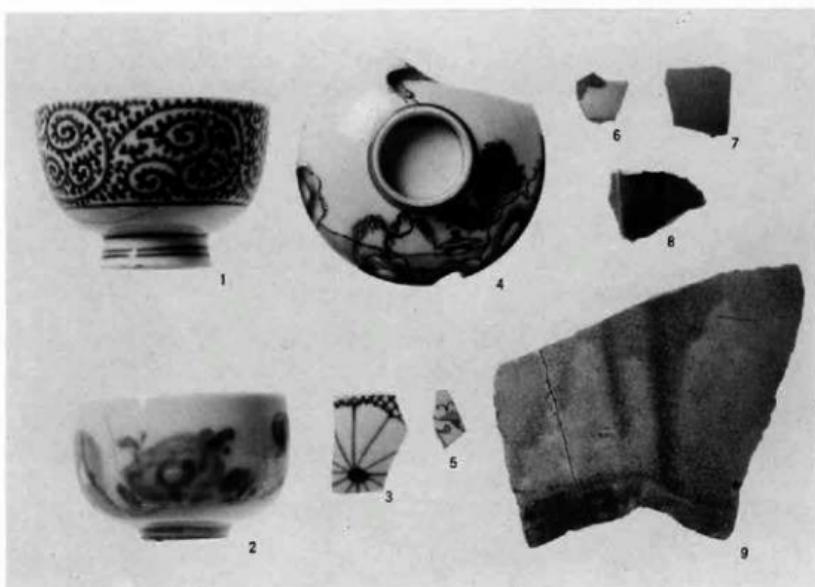
T 4 - b 区 陶器



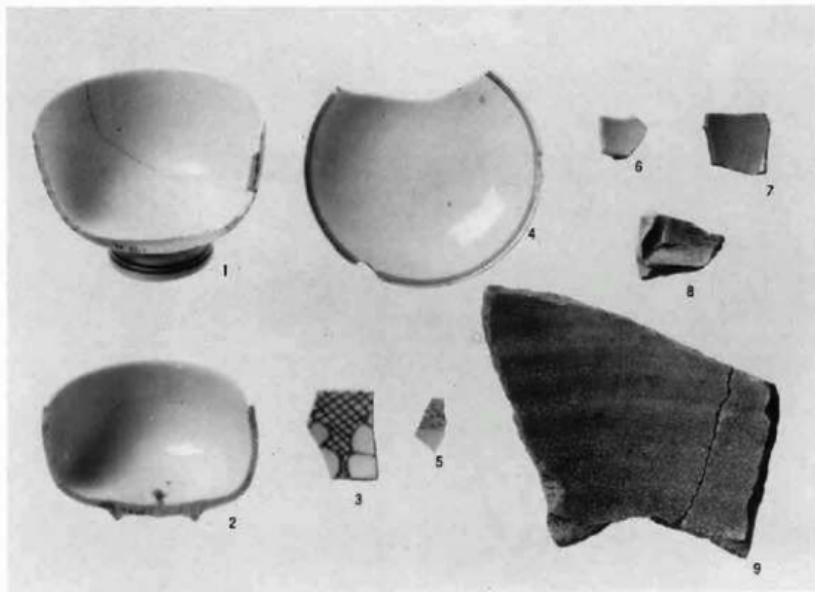
T 4 - b 区 陶器



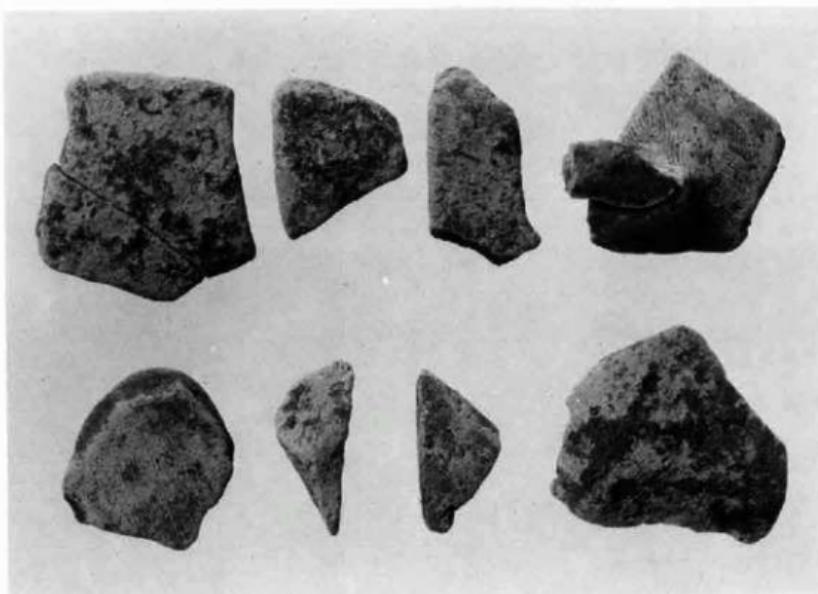
T 4 - b 区 半磁器·土器



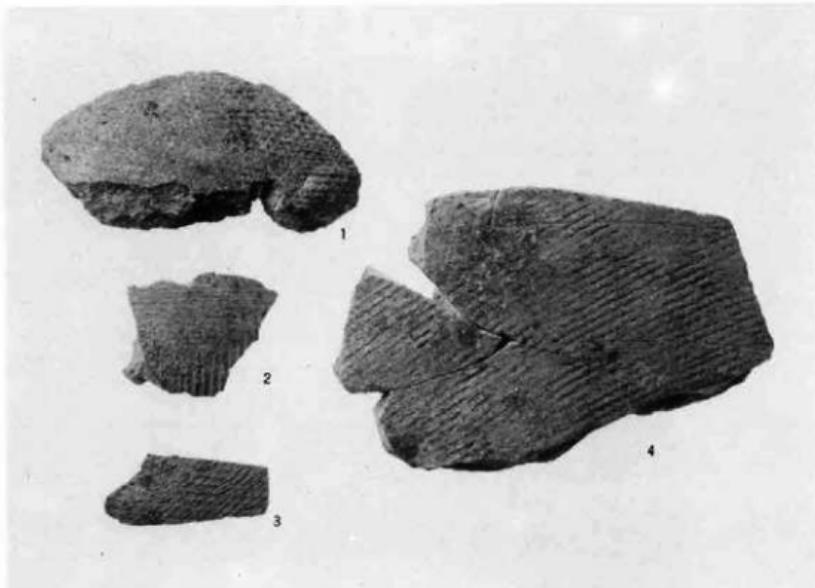
T 4 - d 区 SK 001 磁器・陶器 (外面)



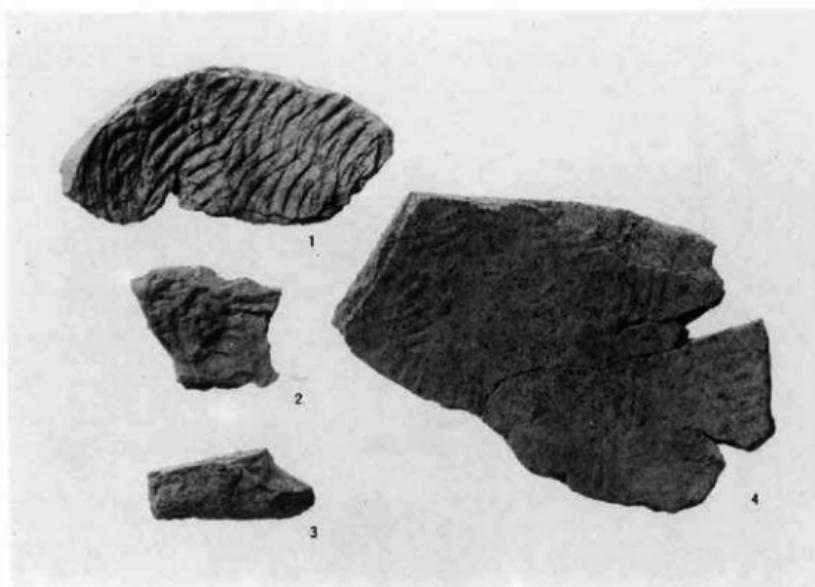
同上 (内面)



T 4 - e 区 土器



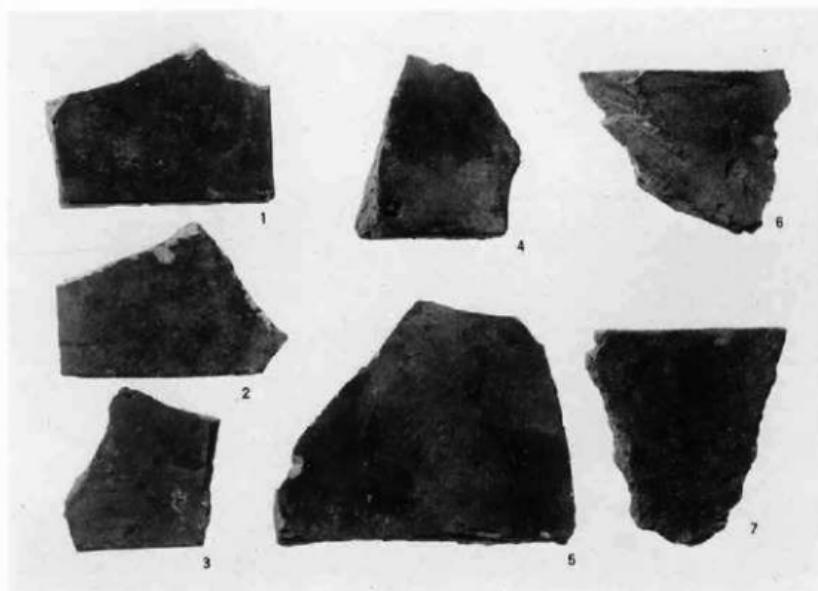
T 4 - e 区 須恵器 (外面)



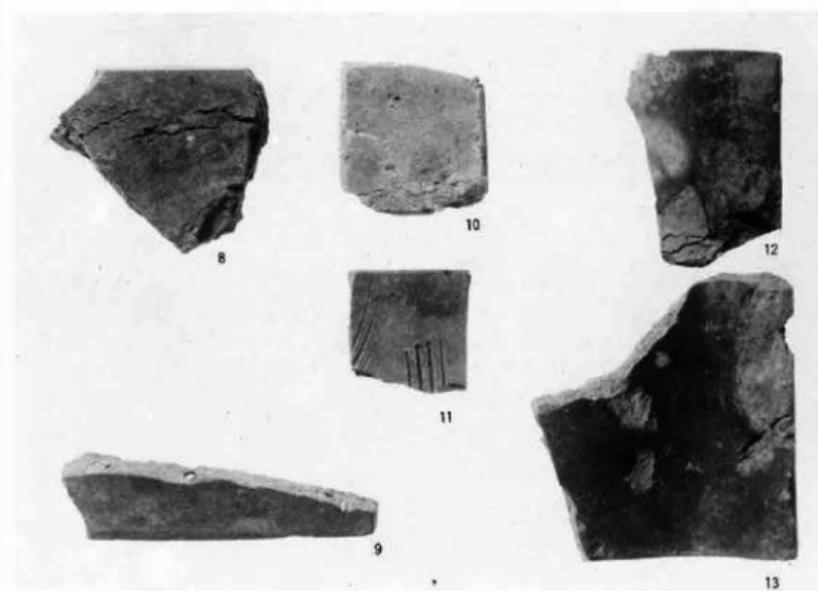
T 4 - e 区 须惠器 (内面)



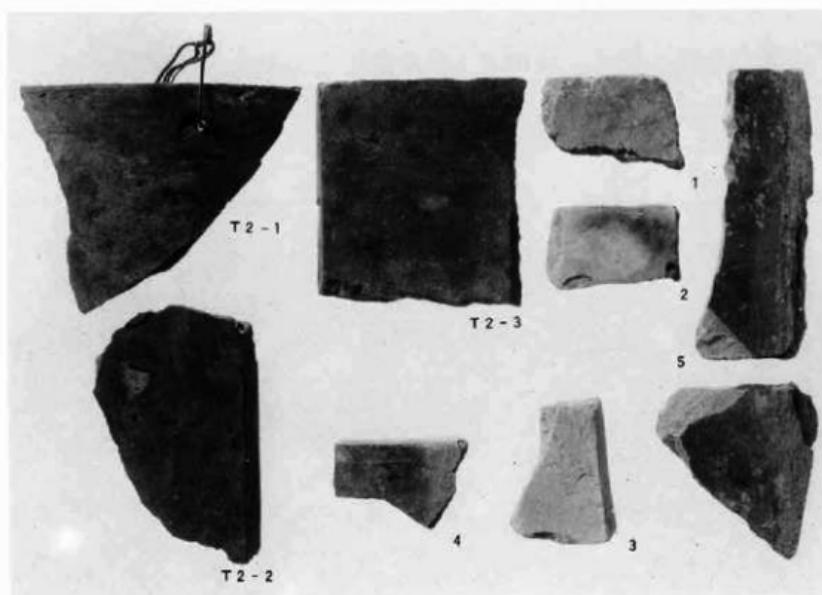
T 4 - f 区 陶器



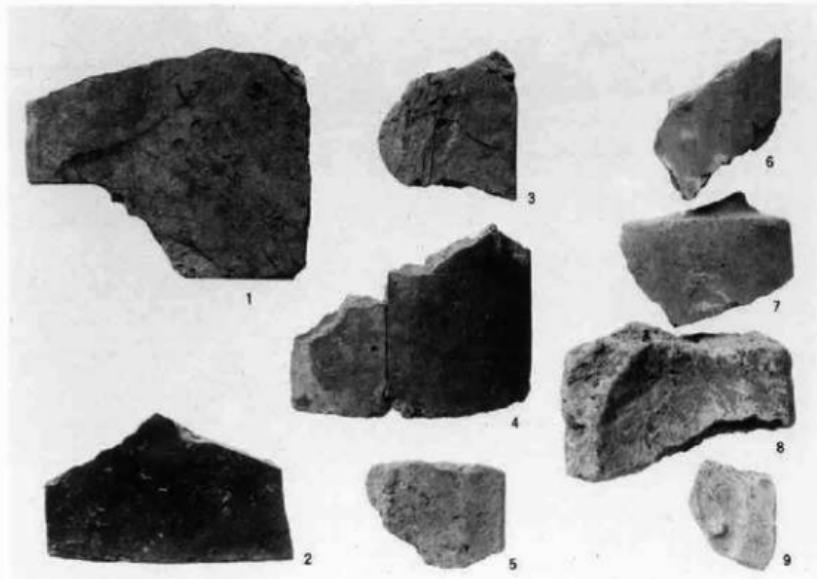
T 1 K



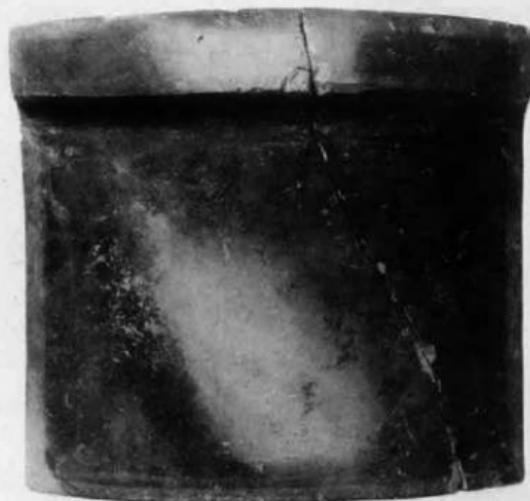
T 1 K



T 2 + T 4 - a 区 瓦 1 ~ 5 (T 4 - a 区)



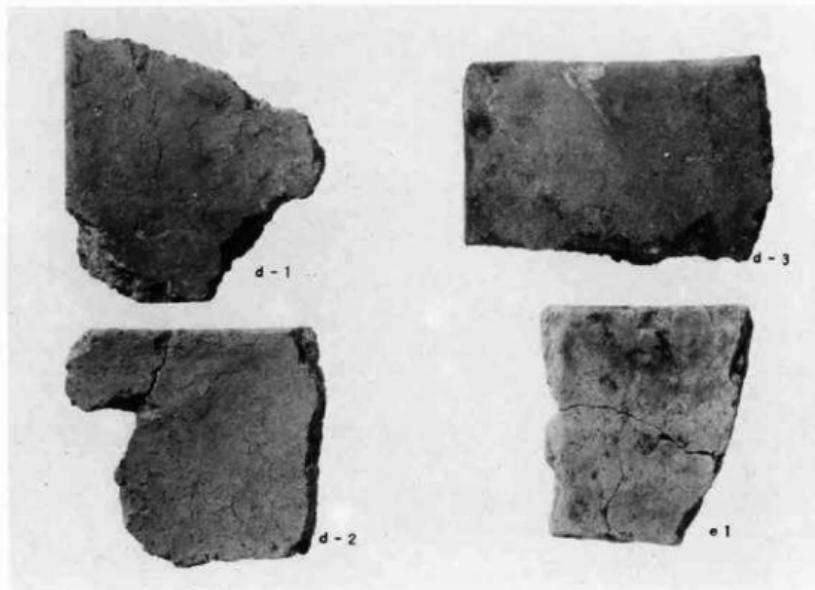
T 4 - b 区 瓦



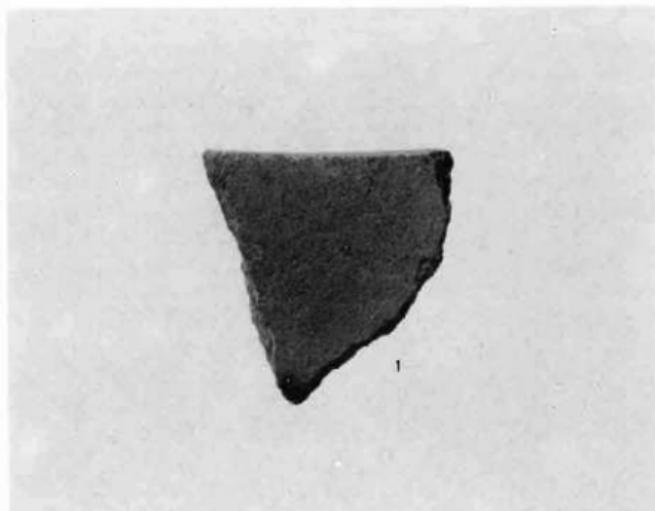
T 4 - d 区 SK 001 瓦



T 4 - d 区 SK 001 瓦



T 4 - d 区下層 · T 4 - e 区 瓦



T 4 - a 区 破石



T1-1



T4a-4

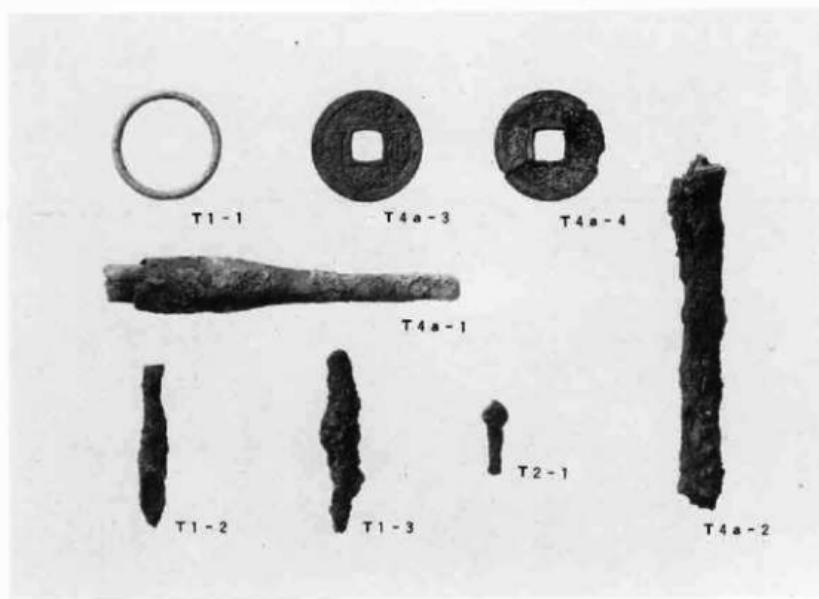


T4a-2

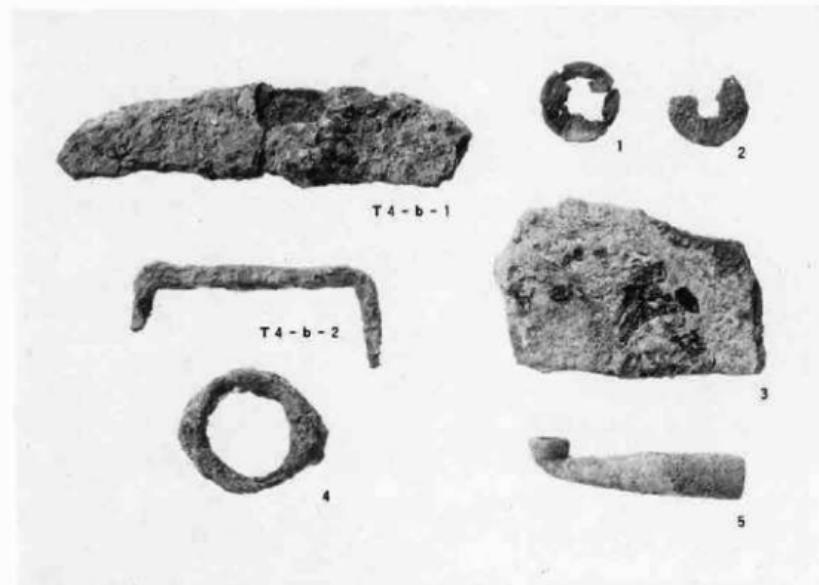


T4a-3

T1 · T4 - a 区 石造遺物



T1・T2・T4-a 区 金属製品



T4-b 区・T4-d 区 SK001 金属製品

1~5 (T4-d 区 SK001)



T 4 - d 区 下層遺構 柱根

昭和 62 年 3 月

宝持坊遺跡発掘調査報告書

—坂田郡山東町清滝一

編集・発行 滋賀県教育委員会文化部文化財
保護課
大津市京町四丁目 1-1
電話 0775-24-1121
内線 2536

財 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大堂町 1732-2
電話 0775-48 9781

印 刷 所 富士出版印刷株式会社
大津市札の辻 4-20
電話 0775-23-2580